紅蓮の命運　情報まとめ

ニブルヘイム地図
↑夜霧谷
○北港
←活火山へ
○貿易商館
○診療所
○神殿
○魔女の再会亭
○盗賊ギルド
○吸血鬼広場
○鮮魚市
○東港
○領主の館

ニブルヘイムについて（港情報より）

賊帝国、及び剣王国などで追放処分になった人間が、流刑地ヴィランに流れ着いてつくった街。
流刑になった人間の理由は様々に存在する。
重税や圧政から逃れて亡命したり、ヨーム戦士団からの脱走者、
流刑の民の末裔なども住んでおり、基本的に本土人への拒否感は強い。
剣王国、賊帝国両者の文化が混在しており、独特の文化を築いている。

極寒の大地で、一年を通して、昼間は10度、夜間はマイナス20度を下回る。
この大地でシェルターや焚火無しに野宿することは死を意味する。
石油資源が豊富で、石油を用いて様々な事が行われている。
外は極寒の大地だが、石油資源のおかげで家の中は暖かい。

ところどころに金やダイヤモンドの鉱脈があり、更にはリグニーラットも多く生息している。
それを目当てに貿易にやってくるもの、一攫千金を目指すものが後を絶たない。
また砂金なども豊富で、それを元に数少ない貿易船から必要な物を買い取ったりしている。

じゃがいもの栽培と、豚の養殖が盛ん。
この地域の豚は放牧されており、清潔に飼育されている。
ヴィランで飼育されている豚はヴィラン豚と呼ばれ、賊帝国、剣王国では高級食材として扱われる。

また、流刑地という特性上慢性的な薬品不足。
外貨の使い道のほとんどは医療品に用いられる。
流刑地と言う特性上娯楽が少なく、人々は外来の娯楽に飢えている。

この街から北東へ三日ほど進んだ場所に、常に霧に包まれ、光の差さない夜霧谷と呼ばれる地がある。
その地は魔物達の楽園とされており、
ドロシーの師でもある伝説のヴァンパイアロード**「紅の女帝」**が君臨している。
夜霧谷のどこかに、魔物娘達の娼館である「夜霧館」があるとか、なんとか。

最近火山活動が活発で、頻繁に地震が起こっている。

公用語は北方西語。第二が北方東語と共通語。
神殿では大地母神アルマーサと北方の神々（オーディンなど）がついでに（？）信仰されている。
ホオヅキは沖合に停泊しており、港町から戻ろうとすると1時間弱を要する。
港→ホオヅキは夜8時港発が最終。ホオヅキ→港は朝7時ホオヅキ発朝8時港着が始発。

魔女の再会亭：この街で一番大きな酒場兼大衆宿
吸血鬼広場　：カーミラの像が立っているのでそう呼ばれている。曲芸は主にここでやると客が集まる
貿易商館　　：貿易するときに荷下ろしをする場所
北港　　：貿易に使う港
東港　　：漁業に使う港
領主の館　　：街の南西（左下）にある
北の街道　　：夜霧の谷へと通じる
西の街道　　：活火山へと通じる
神殿　　：大地母神アルマーサと北方の神々（オーディンなど）が信仰対象
盗賊ギルド　：魔女の再会亭の地下にあった。シーフ以外は出禁
鮮魚市　　：午前4時から8時までの朝市。しばらくは朝6時に行けばドロシーに会える。
診療所　　：サロメが営業している診療所。サロメはここには住んでいない。

初期情報

ニブルヘイムの港へは、ヴォルケイノが「おやつ」を食べる為に入港しています。
ヴォルケイノは、周辺の活火山で噴火の予兆などを感じることができ、噴火のエネルギーを火山から横取りすることで活動の為の魔力を補います。いわば食事です。
ヴォルケイノは一度火山噴火を吸い取ると、そのエネルギーで大体100年ほど活動できます。あとは水さえあれば大丈夫というエコな生き物です。
ヴォルケイノが噴火を鎮めるので、火山の守り神と信仰するヴォルケイン神殿というのも以前はあったそうです。
今回も火山噴火を止める「善行」でもあるので、ホオヅキの船も協力しましたが（機嫌悪くされると困るというのもある）、何故だか**今回の噴火は魔力を吸っても吸っても噴火が収まらないという異常事態が起こっています。**
天然の噴火なら吸いつくせないということはありえないので、どうやら誰かが燃料を追加で投入しているようです。この現象を調査して、火山の噴火を食い止めましょう。
件の**活火山へは歩いて2日、登山に3日ほどかかる高山帯です。途中は険しい雪道で、この季節でも吹雪などが起こるために、耐寒装備が必須になります。**
また、**火山の調査ということで、内部に入ることも予想されますので、耐熱装備を整えましょう。**
そして火山（現地）は広く、何の情報も無しに無作為に歩いても遭難する可能性が非常に高いです。
情報が出そろうまでは現地には赴かない方が良いでしょう。
調査費用の経費として、金貨200枚（2万セレン）を、前金に一人金貨60枚（6千セレン）ずつを渡されています。調査批評は返却の必要はないそうです。依頼が成功すれば、後金の金貨240枚（2万4千セレン）が全員に支払われます。
依頼主はホオヅキの船。取り扱いはアルテミス。

ホオヅキで事前検討

・大噴火が起これば、アパパカルガより少し向こうの範囲まで火山灰が降り注ぐ規模になる。
・港の交易所では耐寒装備は山のように売られているが**耐熱装備はサーコート程度しかなかった。**
・現状、**耐熱対策はドルイドを連れていくことが現実的。**
・ニブルヘイムの街については交易などである程度分かっているが、広場より先はよく分からない。（これまで用がなかったから）
・**火山採掘に来ている錬金術師は探せば一人いるかも？**
・シーフギルドは現状では位置不明。
・ニブルヘイムは流刑者が集まってできた街だということは分かっているが、それ以上詳しくは現状では分からない。
・**領主との面会には知名度200以上が必要だが、知名度400未満だとすぐには面会できずに3日ほど待たされる。400以上ならすぐに会える。**領主は貴族なので、**ちゃんと会話をするにはネゴシエイタースキルと礼服が必要。**
・街の様子は賑やか。良くも悪くもうるさい。
・シーフギルドはNTCの傘下。
・ニブルヘイムの火山は、はるか昔に噴火したことがあるが、それ以降は噴火の話は聞かない。**街の老人が火山の噴火について詳しく知っているかも。**
・**ドロシーは現在、夜霧谷に帰省中。**
・まずは領主・街・盗賊ギルド・酒場と分かれて情報を収集することとなった。

領主の館

・春先なので気温は13℃ほど。
・必要以上に豪奢というわけではないが、良く片付いた上品な内装。建物も古いながらよく掃除されていて、とても落ち着く雰囲気。メイドが紅茶を出してくれた。
・暫くすると領主がやってきた。品の良いおひげのナイスミドル。
・**領主の名前はアラノ・アッシュサーヴァ。**有名な冒険者のセフィに会えて光栄だとリップサービス。
・アラノは流刑の地のはぐれ貴族を自称。
・**最近地震が頻繁に起こり火山が噴火すると噂が立ち、街は浮足立っている。**
・火山は神の御業で、大自然を人間が思い通りにできるはずがない。火山の噴火をどうにかできるならそれは神の御業しかありえないと、アラノは語る。
・火山が噴火するとなったら人間が異を唱えても仕方ない。避難の準備をするくらいが精々。
・**火山を鎮めるという話をするとスケールが大きすぎて圧倒されるアラノ。上位修辞学で何とか説明できた。**
・**アラノはセフィたちが火山の神の手助けをすると、彼なりに理解した様子。**
・アラノが言うには、**この街に住むのは流刑の民とは言ってももう二百年も前の話で今はただの田舎の離島。**
・**火山の噴火を止められるならそれに越したことはないが、アラノの力ではやれることも限られている。**
・ヴィラン豚とニブルポテト(じゃがいも)はとても美味しい。
・この街にも学者は数人いるが、**夜霧谷のカーミラ以上の物知りはいないだろう。**
・**カーミラはこの街ができる前からヴィランに君臨し、流刑民に生きる知恵と文化をくれた。彼女なら神々の話でも動じずに聞いてくれるだろう。**
・**夜霧谷には道案内がいればたどり着ける。(案内無しでは行けない)**
・街には一攫千金を狙ったハンターがやってくる。
・**本土に出て行った博士が正式に流刑になって戻ってきた。**彼女は元々流刑になって流れてきた何百年も続く**医者の一族の末裔。**伝統的な**武器軟膏の治療法(武器で怪我をしたときに、怪我と結びつきのできた武器の方に薬を塗って治す民間療法)を否定して異端扱い**にされた。良い研究の結果が出たので雪辱を果たしに行ったが、相手にされず**魔女として正式に流刑**にされた。
・セフィ(とフラウ)は以後、礼服でなくてもアラノに面会できるようになった。

街の探索

広場

・火山の方にはあまり人は住んでいないが、**麓に2～3家族ほどの白熊狩りのマタギの一族が住んでいる。**
・**時折、一族が白熊の肉や毛皮を売りに街に来る。白熊の毛皮で作った着ぐるみのような外套をすっぽりかぶっている。**

・包丁で怪我をした子供の母親が治療のため包丁に薬を塗っている光景。武器軟膏の治療法のようだ。
・**武器軟膏とは、伝統的な治療法で、武器に薬を塗ると、その武器でついた傷の治りが早くなる。何百年も変わらずに続いている伝統の治療法**で、武器は傷つけた者と命がつながっていると言われ、武器に薬を塗ることで間接的に傷をいやすことができるという理論。傷口を綺麗な水で洗って包帯を巻き、武器軟膏の薬を傷つけた武器に塗ることで効果が現れる。**剣王国、賊帝国、ティガールやマレーン、セレン帝国など、わりと世界中どこででも見られる**ようだ。医者が薬をぬって通常通り治療するより、武器軟膏の方が疵の直りが早いので、民間療法としては風邪の時の首にネギレベルで常識になっている。

神殿

・**メインは大地母神アルマーサで北海の神々がついでのように置いてある。**公民館のような建物。
・この街には本格的なアルマー（アルマーサ信者）は一人もおらず、大地に感謝をしよう程度の信仰。
・オーディンの機嫌を伺いながら大地の恵みをアルマーサに感謝する。本来は冒涜だが感謝は本物。
・**火山の麓にいるマタギの一族は遥か東からやってきたアイヌという一族**らしい。
・**火山の方に住んでいるのはアイヌとサロメ先生くらい**。
・**サロメ先生は異端の一族と言われる医者の末裔。**本土に渡ったが流刑にされて再びニブルヘイムに流された。

市場

・昼過ぎなので市場は終わっていた。市場が開かれるのは朝4時から8時まで。
・**アイヌはカムイの恵みだと言って新鮮な魚を買っていく**。目利きは良いらしく良い魚を買っていくようだ。
・アイヌは白熊の肉を売っていく。**白熊の肉は癖があるが上手に調理すると美味しく、魔女の再会亭の主人がごっそりと買い占めていく。**
・**白熊の毛皮は貿易商館に卸されているが数が少ない**ので貿易の品目に上がることはない。

貿易商館

・貿易商人や、宝物を売りに来たハンターや旅人が出入りしている。
・白熊の毛皮は絨毯や外套、バッグ、ブーツ、寝袋などに加工できるが、**なめして鎧に貼りつけることで毛甲羅という防具を作ることができる。**頑丈で寒冷地で動きやすいのでハンターに人気。
・白熊の毛皮は一頭分で5000セレンで取引されている。（重さ20）クラフトレザーとして様々な状態に加工できる。細工（おそらく手芸）スキルがあるなら自作も可能。
・白熊の毛皮を売りに来るのは主にアイヌだが、たまにハンターが売りに来ることもある。
・**白熊の毛皮の加工品は人気商品で今は品切れ。**今売っている毛皮も人気なので今日中に売り切れるだろう。毛皮を街の仕立て屋に持っていくと加工してくれるようだ。
・ヘラが毛皮を購入した。

盗賊ギルド

・盗賊ギルドは宿屋兼酒場の魔女の再会亭の地下にあった。
・酒場でメニューにはない【魔女定食】を注文すると、看板娘に「再開の杯は？」と聞かれるので「血のような深紅のワインに灰を沈めて」と答えると地下に続く奥の扉に案内される。シーフ以外は知っててもやってはいけない。
・意図的に火山を噴火させる話をしても相手にされない。
・貿易品に紛れて魔術や呪術的な触媒に関連する物品の増えていないかを聞いたら、そういった品は夜霧谷の方で使われ、それ以外の出入りはないという話ともう一つ話をされる。
・ハンターでもないのに流刑地に入った妙な奴がいるらしい。
・サロメという医者が流刑にされて舞い戻ってきたという話と、沖に停泊している巨大船から変な連中が乗り込んできたという話もついてきた。
・ハンターでもないのに入ってきた妙な奴についての情報を買う。
・【原罪の追求者ヘロディア】という存在で、関連性は掴めないものの彼女が来ると半年以内に『大それたことをやらかす者が現れる』らしい。普通は大それたことをしないような者が決まって大事件の首謀者に仕立て上げられる。
・NTCでもヘロディアについては調査をしているが尻尾が掴めない。流刑地でも目撃情報があっただけでどこにいるかは分からない。
・サロメについても情報を買う。
・サロメは流刑の医者の家系アンティパス家の末裔。代々妙な研究をしているが、街に来て診察をして食いつないでいるようだ。
・アンティパスの祖先は、武器軟膏の治療法を否定して、『直接的な作用なしに物事が進行することはありえない』と呪術的な医者を厳しく批判したが、臨床実験を行って武器軟膏派に敗北して異端扱いとなった。
・サロメは『この世は目に見えない無数の生物に満たされて支配されている』（細菌のことか？）という論文を引っ提げて乗り込んだが相手にされなかった。手術を終えた後で病棟を回る医者を人殺し呼ばわりして批判。医学界から異端認定されて流刑にされた。
・アンティパス家が異端認定された臨床実験では同じような傷を負った患者を二つの病棟に分けて、片方をアンティパス家の医者が、もう片方を武器軟膏派の医者が治療した。その結果、武器軟膏派の医者の病棟の方が圧倒的な好成績を収めた。これによりアンティパス家の面目は潰された。
・流刑になり戻ってきてからもサロメは以前と変わらず医者として住居と街の診療所を往復している。
・ここの盗賊ギルドはけっこう暇らしい。

酒場

・名物の豚とポテトをがっつり楽しむためにマスターのお奨めを貰う。
・長さ20cm以上ある粗挽き胡椒風味の長い豚の腸詰と、マッシュされてとろけるチーズと粉チーズと合わせたチーズマッシュポテト、通常の二倍はありそうな大ジョッキに入った黒ビールが出てきて、さらに後で熊の肉をスパイスで臭みを取って味付けした肉汁がすごいメンチカツを追加。メンチカツはソースをかけることでさらに味が変わって新しい世界に誘われる。飯テロ攻撃。
・**ニブルヘイムに流刑者が入植する前に西の街道の先に街があったらしいが、火山の噴火で何もかも滅んだらしい。いま、西の街道の先に住んでいるのはアイヌと名乗るマタギ一族とサロメだけ**のようだ。
・**前に火山が噴火したのはもう300年も昔のこと**なので、街にそれを覚えている者はいない。
・**アイヌは毒を使って白熊を倒すらしい。盗賊も扱いきれない特別製の毒**のようだ。熊を毒で仕留めたら毒が身体に回る前にその部位を素早く切り捨てるらしい。
・**サロメは酒場に来てよくくだをまく**らしい。武器軟膏を否定するが、腕はよく治療した患者はちゃんと治る。
・錬金術師は見かけないようだ。命知らずなハンターか、儲けるためなら命を懸ける肝の据わった商人くらいしか来ない。
・マスターの知る限り街に偉い学者はいないようだ。**一番物を知っているのは夜霧谷のカーミラくらい。**
・カーミラは流刑民に、街の作り方や生き方、土地のことを教えてくれた恩人。**カーミラなら噴火のことを知っているだろう。**
・夜霧谷からは街によく買い物に来るらしい。新鮮な生肉や魚を好む人が多いらしい。**夜霧谷の人に会うなら朝市で捕まえられる**とのこと。
・街の宿は酒場の二階。今はハンターが二人宿泊しているが、リグニーラットを獲りに出かけているらしい。
・宿に宿泊すると食事つきで10セレンほどとられる。
・気を付けるべきことを聞くと、**『武器軟膏は武器に塗ること。傷口に塗ったら傷が悪化する』**とのこと。
・**地震は2～3日に1回くらい起こるらしい。震度3ほど。地震が起こった時も星霊は騒いではいなかった。地震自体は自然なもの**のようだ。
・剣王国フラクナスでは地震なんて起こらない。ミストにとって、初めての地震体験かもしれない。
・**夜霧谷に行く人は、一晩宿に泊まってから朝市で夜霧谷の住民を捕まえて、その案内で夜霧谷に行くらしい。火山の方向に行くのはマタギとサロメくらいで、他にはいない。**

集合して情報共有

・いったん集合して情報を共有した。
・**ヘロディアの情報はテレサが知っているかも。**
・出発するとき、既に**テレサはホオヅキにはいなかった。情報共有時点で魔女の再会亭の酒場にもいない。**
・**テレサは意外と認知されているので聞き込みで見つかるかも。**
・**ドロシーは里帰りに出たままホオヅキには戻っていない。夜霧谷にいると思われる。**
・**リリーナはカーミラと無関係なのでホオヅキにいる。**
・**リリーナもドロシーも医学には詳しいので、武器軟膏やアンティパス家やサロメについては情報があると思われる。**
・ホオヅキに戻ってリリーナたちから情報を収集する組と朝市で夜霧谷関係者やアイヌと接触する組に分かれた。

一度ホオヅキへ

・ヘラとミリアは一度ホオヅキに戻る。
・テレサは宣教をしにニブルヘイムに行ったと女海賊が言っていた。現状ではホオヅキに異変はない。
・リリーナは武器軟膏の真実をヘラに語る。**武器軟膏は効果の不明な薬を患部に塗らない医者たちの方便だったという。**武器軟膏で効果があったように見えるのは、傷口を水で洗って何も塗らずに包帯を巻くことが間違っていなかったから。
・アンティパス一派の敗因は、傷薬に効果があると信じてしまったことと医者たちの空気が読めなかったところにある。

魔女の再会亭でお泊り

・名物料理に舌鼓を打つ面々。
・夜霧谷の人々を見分けるなら、市場で人に聞けば分かるとマスターに教えられる。
・翌朝、**あまりにも早い朝市の開始時間に大半が寝坊しかける**が、なんとか目を覚ましたメンバーが仲間を起こして回り、なんとか朝市に出かけることができた。

極寒の朝市

・朝市は4時に始まる。**未明のニブルヘイムの気温はマイナス23℃。**極寒である。
・**防寒具がない場合は、10分ごとに生命力の最大値が1ずつ低下して、生命力が半分になった時点で低体温症になる。**
・**宿で星霊術のウォーマーを使うのはぎりぎりセーフ**だが今回は防寒具の貸し借りで事なきを得た。
・朝市では鮫の肉、赤マンボウ、ニシン、サバ、クロマグロなど鮮魚が並んでいる。肉を売っている店もわずかにあった。
・夜霧谷から来るのはどんな人か市場で聞いてみるとハーピィだったりラミアだったり人間だったり、色々だとのこと。
・**アイヌが来たのは昨日**とのことだった。**テレサは三日前に火山の方へと歩いて行った**と目撃情報があった。
・夜霧谷の関係者を探していると、運よく**ドロシーとリーンが生魚の買い付けに来ていた**のを見つけた。
・朝食にブイヤベースを食べる一行と漫才を繰り広げるドロシーとリーン。
・**カーミラが以前からホオヅキの冒険者に会いたがっていたこともあり、夜霧谷に来るのは問題ない**とのこと。**夜霧谷とニブルヘイムの間を転移術で往復しているドロシーたちは転移で酔うのが嫌でないなら毎朝6時に市場にいるようにするから夜霧谷に連れて行ってくれることになった。**
・普段、夜霧谷から火山に行くことはないので、夜霧谷と火山の間に道はないらしい。
・**アイヌの集落に行くには西の街道を道なりに進めば大丈夫とのことだが、途中に長さ10m程度の吊り橋があり、そこが難所（？）になっている。**
・**サロメの家はアイヌたちの住居よりもさらに火山寄りの場所にある**という。ドロシーはサロメのことを気に入っているらしい。**サロメがしている研究は世の中の医学よりも100年ほど先を行っている**ようだ。
・**サロメの研究は細菌やウィルスについてのもの**で、そのような存在にたどり着いたのはスカーレットやウィッカの一族を除けばアンティパスの末裔のサロメだけだという。しかもその研究はサロメの（一族の？）独学だという。
・**人が信じることで現実が動く世界の仕組みのせいで、武器軟膏の効果が現実になることは有りえないという。それは医者たちが武器軟膏の理屈を患部に薬を塗らないことの方便にしているためらしい。**
・そして、**ドロシーの一族も細菌とウィルスを探求する一族なのだという。リッチー、ノーライフキング、ヴァンパイアも実は細菌とウィルスのなせる技なのだという。そして、それがウィッカの秘宝の正体だった。**
・**ドロシーが魔女の再会亭の主宛てに紹介状を書いてくれたため、馬を七頭まで借りられるようになった。**

合流と検討

・再び合流してテレサの捜索も兼ねて七頭の馬でアイヌの住居に移動する方法を検討。シャドウやハーフシャドウは影入りをフル活用、天使な武器に戻るなどすれば、なんとか移動は可能そう。
・**馬車を使うと途中の吊り橋が渡れない。馬と馬車を魔法で飛ばすのも無理。**
・**吊り橋は激しく揺れるので馬に乗ったままでは渡れない。空腹・瀕死・朦朧の状態で渡ろうとすると落ちるらしい。**
・**分散行動で一部のメンバーだけで火山の方向に向かおうとしたら警告発生。**火山の方に行くこと自体は間違いないようだ。
・オラトリアに神託を求めると、**幸運な出会いをもたらすものが谷底にいて、急いで行った方が良い**という意味の託宣があった。

出発

・色々あってテレサを救出するためにニブルヘイムを出発することになった一行は謎めいた獣人の女剣士に呼び止められる。彼女の名前はマーナーナ。以前の冒険で探したガルムの実姉と同じ名前だった。名前を知っているテオは匂いだけを記憶したが反応が間に合わなかった。アリーヤは同名の別人だと思ったようだ。情報は共有されなかった。セフィは名前は知らなかったもののその姿を写真記憶。ミリアとヘラは記憶のどこかが引っ掛かった。
・一行との棘の入り混じったやり取りの中でいくつもの予言めいた言葉と謎めいた言葉を残して去って行った。
『いつも御仁達は同じ時間にここを通られるのでね』
『毎回御仁達は本当に良い勘をもっておられる』
『赤い悪魔に気を付けて』
『私は流浪の剣士。名前はマーナーナだ。故あって仇討ちの旅をしている。何、直ぐにまた知り合いになれる。今は先を急がれた方がいい』

遭遇

・西の街道を進み、渓谷に差し掛かったあたりで、白衣を来た女医と黒い看護服を着た女が逃げてくるのに遭遇。
・女が叫んだ瞬間、一行の周囲が真っ赤に染まる。女医と看護服の女を追っていたのはスインカーだった。
・戦場は吊り橋の手前。スィンカーのせいでクリスタルオーブ所持者以外はレベルを失う。
・アリーヤがテオクリスタルを割って半径10mだけを【精神穿孔機構】で通常戦闘可能にする。
・駆逐型スィンカー七体を一瞬でセフィが全滅させると、殲滅型スィンカーが現れた。
・今回の殲滅型スィンカーはDr.クラウドだった。（詳細はネームドNPCリストに）
・一行の波状攻撃をブルースフィアも使って耐え抜く、クラウドスィンカー。
・クラウドスィンカーはネクロクラクションカーズ（負の生命力による回復。抵抗に失敗するとアミュレットを含む一切の軽減が不可能なダメージが30降りかかってくる。アンデッドには効果がない）とアッシュトゥアッシュ（抵抗に失敗すると即死して、さらに死体が灰状態になる）を放ち、一部を除いて一行は全滅。
・色々な方法で二つの術式を耐えたミヤが全員を覚醒させ、ユーリとテオが回復をさせて全員で反撃。クラウドスィンカーを倒す。
・クラウドスィンカーには黒の衝撃を撃ってきたヘラがリリーナに見えたのか、ヘラに近づいて生前の想いを伝えるとヘラの腕に魔術刻印を刻んだ。

闘い終わって

・逃げてきた女医はサロメ、黒い看護服の女はヘロディアだった。
・サロメたちは途中でアイヌの集落にも寄ったがテレサらしき人には会っていないという。
・渓谷の上空から飛行可能な面子で谷底の方を探すと、岩陰にふんわり光っているところがあり、近づいてみると光っている人とうつぶせに倒れているテレサがいた。
・光り輝く人の前では、天使、ホムンクルス、魔界貴族、アンデッド、及びヴァンピール、シャドウが見た場合、恐怖（畏敬）で行動が出来なくなる。抵抗は出来ない。
・光り輝く人は、性別不明の絶世の美貌に笑顔を浮かべて言葉を残す。
『畏れることはありません。あなた方が来るのを待っていました。主の用いられる貴方達に祝福がありますように』
・すぐに消えた光り輝く人。うつぶせで倒れているテレサは水を要求。水を飲むと再び倒れたので飛行可能なメンバーが三人がかりで救出した。
・ヘロディアはテレサが遭難していたのを見て驚いた。
・ヘラとサロメがテレサを診察。『凍傷無し、脱水症状、軽度、栄養失調無し、打撲無し、裂傷なし、擦り傷無し。強度空腹』とても崖の下に落ちたとは思えないテレサの状態。ヘラが食べ物を与えると復活した。
・テレサによると空腹でめまいを感じて転落したとのこと。
・ヘロディアは医学の知識を持っているようで、看護師として問題なく動けるようだ。
・サロメたちは街への途中でテントを張って野宿していたところ赤い獣に取り囲まれて、馬もそのまま、道具も放り出してきたため、いったん色々回収しつつ自分の家に戻るつもりのようだ。一行はサロメから魔女の再会亭の主人宛てのお詫びの手紙を託され、テレサを連れて街に戻ることになった。
・サロメがニブルヘイムに戻ってきたのは2ヶ月ほど前。
・ヘロディアが言うにはスィンカーは足が遅かったから逃げてこられた。
・サロメに二度目の論文について話題を振ると、その話はしたくないと断られる。ヘロディアが煽ってきた。

宿屋に戻って

・宿屋の主人に馬を返したので、馬のレンタル料は大部分が戻ってきた。
・**テレサが火山の方向に行ったのはスィンカーの気配を感じたから。彼女はスィンカーの気配を感じ取れるという。アイヌの人によると、山の方で何かが起こっているらしい。**テレサは登山の装備を持っていなかったので街に戻ろうとして転落したとのこと。
・やはりテレサはヘロディアを知っていた。目を合わせたくなかったらしい。
・**ヘロディアはアインスの使徒にして信奉者で、正義も理念もない純粋な愉快犯**として各地で悪行を積み重ねているという。**ヘロディアは人に罪を自覚させてそれを育てるために罪を説き、犠牲者は自分のすることに迷いを持たなくなって、とんでもないことを平気でする人間に矯正される。ヘロディア自身は何もしない。犠牲者がやらかしたことで発生する大惨事を見て楽しむだけ。**
・ヘロディアはアインスと一度も会ったことがないし、アインスもヘロディアのことは知らない。ヘロディアは『自分の中のアインス』に従っているだけ。**ヘロディア自身は何もしていないので、裁くための口実がない。ダークビショップがいるとすればヘロディアなのだろう。**
・テレサは怪異や人外が人に危害を加えるなら歯止めになれるが、人が自分の意志でたとえ悪であっても罪の道を歩くことを止めることができない。テレサにできることは道に迷う人を嗜めたり激励したりすることだけ。人が自分の意志で迷いなく決断したことに関わることはできない。それはテレサの伝道者としての領分を超えている。
・ヘロディアがサロメにはりついているのなら、**サロメが何かをやらかす可能性は非常に高い。火山の方に自宅があるなら雪山で何かしているのだろう。**
・**サロメは既に手遅れで、目の色がおかしくなってきている。**サロメが何をしようとしているのかを早く突き止めなければならない。
・テレサは最近デジャヴが激しく、**同じことを何度もしているような気がするらしい。何度も火山が爆発しているのを見たような気がする。**
・宿の二階にはハンターが二人。一人はリグニーラットを捕まえた男性のハンター。もう一人は街をうろついている女剣士だが戦果の話を聞かない。二人に話を聞きに行くヘラとメイファ。

ハンターとの会話

・リグニーラットで儲けたのは8万セレン。リグニーラットの相場は暴落気味らしい。
・ハンターからすると、いたって普通の雪山だったらしい。
・地震で時折リグニーラットが驚いて硬直するので捕まえやすかったらしい。
・狩りをしたのは火山の麓だが、**アイヌの人たちに白熊が出ないエリアを教えてもらったおかげで安全**に狩りができた。
・**火山に行くならアイヌにきちんと挨拶をしてアイヌの言うことには従った方が良い。謝礼も払うこと。**
・**白熊のいない場所はその日によって違うようで、アイヌの経験則でしか分からない。だから地図で安全なコースを示すようなことは無理。**
・ハンターはヴィステージボルトの人なので、剣王国の方でサロメがどう呼ばれているかは知らない。

『輪廻殺し』マーナーナとの会話　1

・部屋に入ってみるとマーナーナは鎧を着て剣を腰に下げていた。臨戦状態。
・『今回は』斬りかかってこないのかと、また繰り返しを感じさせる発言。
・マーナーナは繰り返しの現象を記憶していることが確認できた。二週間後の噴火で夜霧谷を除く一帯は滅びてしまうとのこと。ホオヅキも被害を受ける。
・滅びの原因は火山の噴火ではなく、火山灰にある。火山灰に紛れて疫病がばら撒かれ、触れただけで罹患して瞬く間に死に至る。
・火山の麓でサロメが病気の元を育てているらしい。過去5回、ホオヅキの冒険者たちはサロメを追い詰めているがそのたびに『やり直し』が発生しているという。今は6回目らしい。
・マーナーナもまた過去に妹を助けるために天秤の騎士に縋り『やり直し』を願ったことがある。しかし、その結果妹は生きているが奴隷として売られ一族も散り散りになってしまった。やはり彼女はガルムの実姉だった。ガルムが生きているので再度のやり直しをするわけにもいかず、天秤の騎士アインスを殺すために旅をしているという。
・彼女は『輪廻殺し』のマーナーナ・ガルム。遥か南に昔存在した、ガルム一族の生き残り。
・アインスの能力、『輪廻』を体験した者は、自分の思い通りに世界をやり直せる代わりに、他の人間の『やり直し』に付き合わないといけないという制約を課される。マーナーナはサロメの『やり直し』に付き合わされていた。
・サロメは剣王国のアパパカルガでアインスに会って『やり直し』を願っていた。
・『やり直し』をする者は他の罪人（『やり直し』の経験者）に命を狙われる。（それ以上『やり直し』に付き合いたくないから？）
・マーナーナは『やり直し』をした者たちを狩って最終的にはアインスを倒そうと旅をしている。
・『やり直し』は自発的にトリガーをかけないと発動しない。なのでやり直しをされる前に不意討ちで一撃で倒す必要があるという。
・輪廻を止める方法は三つ。
（1）満足できる結果を本人に与える
（2）『やり直し』をされる前に本人を殺す
（3）本人を改心させてやり直しをやめさせる
・これまでの失敗はサロメを追い詰めてしまい『やり直し』をされているから。
・アインスの臭いを嗅ぎつけてきたヘロディアが面白がってサロメを守っているので、暗殺も難しくなっている。
・ヘロディアを殺してもサロメが『やり直し』をするので意味がない。もしヘロディアを殺すなら繰り返しが無くなるまで待たなければならない。
・今、サロメが改心しても、既に準備は整っているので手遅れ。
・火山灰に疫病の元を付与する装置は既に完成している。その装置を嗅ぎつけてスィンカーが出現している。しかし、スィンカーはすぐに火山に飲み込まれてしまう。その結果スィンカーが火山のエネルギー源になっているという。理屈の上では装置を破壊すればスィンカーは現れなくなる。
・実はホオヅキも誰かの『やり直し』による産物らしい。ホオヅキの冒険者に行く先にスィンカーが現れるのは輪廻に関わっているのが理由らしい。マーナーナもまたスィンカーに襲われているようだ。
・マーナーナが疫病の元を生産する装置のことを知っているのは、装置が雪山にあるのを発見したホオヅキの冒険者に知らされたからだという。マーナーナ自身は在り処を知らない。激しい威力と熱に関わりがあるようだが、過去の周回でホオヅキの冒険者が言っていたことなので、見ればわかるのだろうとマーナーナは言う。
・以前の周回でホオヅキの冒険者に襲われたときは、スィンカーをけしかけた犯人扱いにされたのだという。
・『やり直し』では少なくとも半年は遡れるようだ。心残りになっている過去の出来事のやり直しを願うらしい。
・サロメもヘロディアも何度も同じ状況を周回していたので、スィンカーに追われても取り乱していなかったし、落ち着いていた。
・サロメが驚いていたことが有ったとしたら、そこがサロメにとっての『想定外』になり、つけこむ隙になるだろう。
・そして、サロメは『やり直し』は自分しか知らないと思っているはず。マーナーナはサロメから見れば、まだ怪しい剣士に過ぎない。
・サロメは明後日にニブルヘイムに往診に来る。ということは、その日は空き巣のし放題ということになる。
・マーナーナはホオヅキの冒険者に協力してくれると言ってくれた。

『輪廻殺し』マーナーナとの会話　2

・アインスによる**『やり直し』が何回できるかはどのようにアインスに願ったかによって違ってくる**ようだ。
・ホオヅキの冒険者の行動は『やり直し』が発生するごとにかなり違うようだが、**最初に火山に向かうタイミングと『嫌な予感がするから』という理由は毎回同じ**。
・以前の周回ではあまりホオヅキの冒険者とは話さなかったので、以前の周回で冒険者が何を考えていたかは分からない。
・**『やり直し』の発生タイミングも毎回違う。**ホオヅキの冒険者が火山に向かった時だったり、噴火が起こった後だったこともある。
・**あまりマーナーナから情報を引き出し過ぎると『世界に感づかれる』。**（スィンカー発生のトリガーになる？）

朝。マスターとの会話

・翌日の朝、マスターにアイヌへの贈り物について聞く。
・**マスターによるとアイヌが喜ぶ贈り物は木彫りの彫刻らしい。友好の証に木彫りや骨彫りの細工を贈るのは伝統とされている。ただし、必ず自分で作った物でなければならない。出来合いのものを贈るのは侮辱とされてしまう。**

朝。ドロシー、マーナーナとの会話

・翌朝、七時にドロシーが宿にやってくる。リーンは相変わらずボケた。
・ドロシーによると**サロメが大量虐殺をするとは思えない。人里離れた場所に住んでいるのも、実験に失敗しても犠牲者が自分一人で済むようにするため。みんなのためにと言いながら病気の研究をしている。**
・**病原菌を製造する装置や病原菌への対策は、どのような菌が作られているかにもよる。**
・空気の中を移動できるタイプ、水の中しか移動できないタイプ、逆に湿気ると死んでしまうタイプ、人の身体の中から体の中にしか移動できないタイプ、など様々。
・**ばら撒く病気の名前や症状が分かれば病原菌の特性やばら撒き方も分かってくる。サロメの研究室から研究資料を盗んでこれれば良い。培養している現場を押さえれば言うことない。**
・（火山灰に混ざってばら撒かれて触っただけで感染するということに対して）空気感染か接触感染か。しかし、**触っただけで感染するというのはあまり聞いたことがなく漠然としすぎている。**
・サロメの発表した論文は『疾病に伴う見えざる手について』。内容は以下の通り。
【疾病は今まで、呪いの類、または幽霊、伝染するオカルトのようなものだと考えられていたが、実際には私達の見えない無数の生き物が私達の体内で繁殖するせいで起こるものだ。いわばそれは多数の虫で構成される虫柱のような物で、その見えざる手によって我々は常に触られている。それゆえに、その手を払いのけることが、疾病の予防に繋がり、それを念頭に置いて医者は行動しなければならない。見えざる手は流水と蒸留酒に弱く、手を流水で（ため水では無意味）洗い流し、蒸留酒でさらに手をゆすぐことによって、見えざる手の影響を受けない状態を作り出すことができる。また、見えざる手に振られたものは身体だけでなく衣服もその影響をうけるため、疾病の診察、また流血を伴う手術の後は清潔な衣服に着替えてから診察しなければならない。**手術の後に着替えず、手も洗わずに患者の診察をおこなう意思は、見えざる手によって間接的に患者を殺しているのだ。**と結ばれている。検証データとして『手術を行う医者が直接見る病棟と、手術に関わらない看護婦が見る病棟では、同じ傷や病気の手当てでも圧倒的に死亡率が異なるという臨床データ』が挙げられている】
・このような論文は人間が独学でたどり着けるような領域ではなく、サロメは天才か鬼才の類だろう。
・ドロシーの採点では94点。論文の切り口が攻撃的過ぎたことに問題点があった。
・**100点を取るには、手術後着替えるだけでなく、必ずマスクをして、できればゴーグルと薄手の手袋を用意し、一度使ったものは廃棄して燃やすべき。一番良くないのは身体に付着すること。目や口などの粘膜からでも病原菌は入ってくる。**
・これは**ドロシーたちウィッカの一族が1200年の研究の末にたどり着いた域であり簡単に真似できるものではない。**
・**サロメに大量虐殺をする動機があるとしたら『実際に「見えざる手」があることを世間に示すためにありえない病気をばらまく』ことだろう。**
・**世間が見えざる手を認知して、医者がそれを前提に行動する様になったら、治療に失敗して死ぬ患者は大いに減るが、医者が病気をばらまいて人を虐殺するのは一線を越えている所業。ドロシーにはサロメがそんなことをするとは思えない。**
・**サロメの家の近くへの転移は可能。噴火で滅びた街の遺跡のゲートがあるので、ドロシーがいればそちらへの転移ならできる。**
・**戻るだけならローズの歌で戻ってくることが可能。ローズがニブルヘイムの街に戻るために、写真記憶した。**
・ここでマーナーナのツッコミが入る。
『**過去の体験をもとに、通常ではたどり着けない領域にたどり着こうとすると、星の監視者が現れる**』
『**火山を噴火させたけどうまくいかなかった。だから今回は上手くいくように装置を改良した。それはあり得ないチートであり異物だから、スィンカーはそれを壊したくなる**』
『**やり直しをしているサロメもだが、星にとっては出来上がってしまっている装置を「取り消す」ことのほうが先決で、装置を壊すことでスィンカーも満足するだろう**』
・マーナーナが装置を破壊することが可能かどうかは実際に装置を見ないと分からない。しかし、**今回はマーナーナも事情を聞けるので手伝えることはあるかもしれない。**
・下手に聞くとスィンカーが現れるかもしれないからドロシーは『やり直し』については聞かないことにした。知りたければ自分で調べる。
・マーナーナは今回は一緒にはいかない。一緒にいるところを見られると次の周回で無駄に警戒されたくない。今回は上手くいくだろうとは確信できない以上、自分のアドバンテージを失いたくない。
・風が吹いた程度では夜霧谷の霧は晴れない。
・**大体病原菌は熱した水に弱い。お湯にくぐらせるのが一番簡単な見えざる手を除去する方法。煮沸消毒という。**

朝。ハンターとの会話

・ヴィステージボルトに向かったはずのハンターが宿に戻ってきた。海が時化ていて船が出なかった。明日出直し。
・リグニーラット狩りに成功したら、アイヌにリグニーラットの尻尾を贈ると良い。アイヌはリグニーラットの尻尾を儀式に使用する。
・リグニーラットの狩りに来たと言えばアイヌも歓迎してくれる。
・夜霧谷にたちこめている霧が、たまに風で海に流れる。夜霧谷は名前の通り、常に濃い霧に包まれている谷。無作為に歩くとすぐに全身ずぶぬれで凍傷になる過酷な地域。迷い込まないように注意すべき。
・ハンターの名前はエドワードでティガールの元第三皇子レオンハルト・フォン・ティガールの腹心だった。
・ヴィステージボルトでの潜伏生活もそろそろ終わるらしい。
・エドワードとレオンハルトについてはネームドNPCリストに掲載。

ドロシーに転移させてもらう。遭難の危機

・サロメの家の留守を狙って家探しをするためにドロシーに転移をさせてもらうことになった。
・ドロシーの転送陣は30秒しか開けない。うっかり境界をまたいだまま30秒過ぎると部位欠損になる。
・気温はマイナス25℃。転送前に防寒具装備の宣言をしていなかったため凍傷の危機に。装備に防寒機能のあったメンバーがウォーマーを使うことで、危機を乗り切ったかに見えた。
・吹雪で視界はホワイトアウト。かすかに見えた建物のうちの一つから赤外線視力で熱源を感知。スルーズが氷雪霊に頼んで吹雪を弱めてもらって建物に近づいたところで、建物の中から助けてくれそうな声がする。聞き覚えのある声ではなかったので、厚意に甘えて中に入ることに。

遺跡の建物の中で

・風がしのげて火が焚かれているので気温は12℃ほど。白熊の毛皮をすっぽりかぶった女性が火を焚いている。ウパシカムイ(雪の神)の機嫌が悪いらしい。
・やはり女性はアイヌだった。先祖が遥か東から流れてきたという。本土の人間からはエスキモーとかイヌイットと呼ばれている。
・女性の名前はクッシャロ。
・クッシャロに対してはリグニーラット狩りをしているように説明をした。尻尾を渡すなら最大限協力してくれるようだ。
・リグニーラットの尻尾は毛が滑らかで一方向に進むカムイの道しるべになるためカムイを見送るのに道を作ると言われている。
・人間の力が及ばないもの、それを司るものをアイヌではカムイと呼ぶ。ウパシカムイ(雪の神)やアペカムイ(火の神)など。
・力の及ばないものをカムイと呼ぶのはアイヌの生き方で押し付けるつもりはないが、アイヌの集落に泊まる間は尊重してほしいと言われる。
・その時、ウパシカムイが通過する。
『つまらない、つまらない、きにいらない…きにいらない、どこへいった、どこへいった……フルー、な』
・突風のような激しい風。耳を塞いでいないと耳の奥まで凍らされるような金切声。一瞬だったが焚火まで消えてしまった。災害霊か？
・ウパシカムイが通るときは耳を塞いでやり過ごすこと。見つからなければ殺されない。
・滅びの七夜には吹雪の星霊はなかった。そのままアイヌの集落に案内してもらうことに。

アイヌの集落

・10人ほどの集落で、みんな白熊の毛皮をかぶっている。
・白熊はこの山に棲むキムンカムイ（山の神）。その毛皮を貰うことで山に住むことをキムンカムイから許される。
・アイヌは白熊を狩るが、同時に白熊から生きることを許してもらうことを乞うている。アイヌと白熊は対等の存在。
・**キムンカムイ（白熊）は弓だけでは倒せない。**本土人は銃を使うが**アイヌは特別製の毒を使って倒す。毒は一族の訓練を受けた大人だけがキムンカムイと戦うときにだけ使う。毒は特別な毒草を72日間に詰めて作るもので神聖なもの。その毒の秘密を狙う者は一族の誇りを以って殺す。**
・**この日は南東の麓（ゲートのあった地点）に行ってはならない。（ウパシカムイが暴れる）キムンカムイが狩りをしているのは南西の森の辺り。**だから、**北東・北・北西に行けば比較的安全にリグニーラット狩りができる。**
・**ウパシカムイは常に存在して移動を続けている。アイヌは大体のコースを把握しているので通り道で立ち往生しない限り問題はない。ただ、計算が狂うこともある。過去にウパシカムイに挑んだ者はいるが誰も敵わなかった。**
・**サロメ先生は洗濯も汲んだ水で行うなどカムイやアイヌの文化にも敬意を払う良い人。ウェンカムイに非常に詳しく魔除けもしてくれる。サロメ先生はカムイにとても尊敬されていて、アイヌの生活も彼女がいないと成り立たないほど重要な存在。**
・ウェンカムイはアイヌにとっての悪い神の総称。人を食べたキムンカムイ、病気、傷の化膿。**アイヌに近寄る見えない手は全てウェンカムイと呼ばれる。サロメ先生はそれが見える呪い師扱いになっている。**
・**サロメ先生は集落の先にある山道の先、山の中腹に住んでいる。今朝早くニブルヘイムの街に往診に出かけた。**
・クッシャロのアチャ（父）のマシューが登場。身長230cmの巨漢で刃渡り1.5mの山刀を提げている。
・マシューによると、**細工物は本来は求婚の相手に贈るもの**で、街の方で土産物として誤解されて広まっているらしい。10年前に8歳の時のクッシャロがハンターに細工物を貰って勘違いしたエピソードが語られた。
・最近で**一番大きなウェンカムイは15年前に雪崩の下から現れた氷漬けのヘラジカの死体から現れた疫病。氷を砕いたらヘラジカの死体は新鮮な肉だった。ウェンカムイ（悪い神）であるウパシ（雪）の贈り物が良いもののはずがないと大人は止めたが、若者がヘラジカの肉を食べてしまった。**
・**ヘラジカの肉を食べた若者たちは口から吐血したり肌が爛れたりして、結局助からなかった。**
・**サロメ先生はその時罹患した若者を隔離してヘラジカの死体を焼却処分（ウェンカムイを野放しにしてはいけない。火を使ってウェンカムイを送り返すと説明した）にしてそれ以上の疫病の拡大を防いだ。それでもサロメ先生は助けられなかった若者のために泣いたという。その行いに心を打たれたアイヌはサロメ先生に少しでも役に立てばと恩返しをしている。**
・**サロメ先生によると、罹患した若者に触れただけで危なかった。**下手に介抱したら村が全滅していたと説明した。
・クッシャロは話に聞いているだけだが献身的なサロメ先生を尊敬していて彼女のような大人になりたいと思っている。
・**南海の医学知識では皮膚系の伝染病だが、経口による発症で皮膚に感染する病気は聞いたことがない。西方の遊牧大陸で遊牧民が死肉を食べて血を吐いて死ぬという伝承があったかも**しれない。
・ヘラジカもたまに現れる。洗われたら一族総出で送り返す。ヘラジカは矢で弱らせてから山刀で首を切り落とす。命がけになる。一撃で首を切り落とせるのは一族で一番の英雄のマシューだけ。
・テントに招かれて白熊のスープをご馳走になる。肉食禁止のヘラは干し芋を貰った。ヒンナヒンナ（いただきます）。
・**狩りに出かけても夕方までには戻ること。でないと遭難して死ぬことになる。**
・リグニーラットを狩るためには狙撃をする必要がある。一行で狙撃をできる条件をクリアしている者がいない。
・**エドワードがアイヌに感謝と友好の証にと置いていったよく手入れされたクロスボウを借りることができた。壊さずに返さなければならない。**エドワードは生粋のハンターとしてアイヌに尊敬されるのほどの腕前だったが、何度かリグニーラットを仕留めそこなっていた。引き金を引こうとすると震えることがあるという。
・白熊の毛皮はサイズを合わせて加工する。一頭分の毛皮から、手袋、ブーツ、ガープを作るという。アイヌに頼めば毛皮を加工してくれるらしい。村娘の裁縫のいい練習になるとか。

リグニーラットハント（狩り組）

・一行はサロメの家の空き巣を狙う組とリグニーラットを狩る組に分かれることにしたが、分かれる前にリグニーラットの足跡を発見。予定を繰り上げて狩りがスタートした。
・運よく硬水の湧水を発見する狩り組。リグニーラットに詳しかったミストが知識を披露。
・ミヤが見つけた足跡は、2時間前、6時間前、10時間前のもの。どうやら4時間周期で獲物が水を飲みに来ているようだ。
・リグニーラットは小さすぎて狙える部位が頭と胴体と尻尾しかない。尻尾はアイヌに贈る必要があり胴体を撃つとリグニーストーンが砕ける。頭を狙うしかない。
・湧水の位置を狙撃できるポイントを探すとちょうど一人が隠れられる木の洞を発見。また、使われていない熊の洞窟を発見する。
・ミストが狙撃手となり木の洞に隠れ、それをフラウがカモフラージュする。他の面子も良い感じに擬態。
・そのまま50分経過してリグニーラットが現れる。見事に狙撃に成功するミスト。リグニーラットの死体を確保。
・熊の洞窟に隠れていた面子は巨大な獣の気配を感じる。
・時刻は正午頃。一旦アイヌの集落に戻ることとした。ローズの歌の力で近道をショートカット。

潜入（空き巣組）

・サロメの住居の外見は大きめの民家という感じ。研究所っぽくはない。地形は雪山・雪原。火山扱いではない。
・音による周囲の索敵は失敗。耳が痛い。六芒眼でみても防犯対策魔術の気配はない。
・侵入にはピッキングが早そう。窓から中を覗こうとするが木の窓が閉まっていて中が見えない。家の外にパイプラインや伝送路の類も無し。
・ヘラがレイスフォームになって住居の中を先行偵察。特に何もないようなのでセフィが魔術で開錠。
・住居の中は生活感がありながらきちんと片付いている。医療器具なども置いてある。二階は寝室。一階の奥に研究室、書斎。色々と本が置いてあり、机の上には研究日誌。あとはキッチンぐらいしかない。地下室も隠し部屋もないようだ。
・書斎の研究日誌くらいしか目立ったものはない。
・研究日誌にはかなり前からの記述があるが、二週間前で記録が止まっている。全てが終わってから続きを書くと書きとめてあった。二週間前からやり直しが起こっているようだ。
・内容は村の人々の診療記録、ヘロディアとの生活のこと、至って普通の日記に見えるが、合間合間に変な記述がある。
『気温−度、湿度問題なし、培養具合：良好、120コロニー。密封作業80%』←走り書きのメモ
コロニー数は増減を繰り返しながら徐々に増えてきている。
・日記の最後のページから1枚めくった後に密封率が上昇していく様子がメモされている。三日ほど前に100%に到達。
・サロメの日誌については別項目に記載する。
・サロメの日記の備考2に書かれている火山の培養室はサロメが建設したものではないようだ。火山で滅びた文明の施設をそのまま利用していると思われる。アイヌが誰か知っているかもしれない。
・フォルトゥナとルイリィで侵入の痕跡を消し、ヘラが再度施錠してアイヌの集落に引き揚げることとなった。
・屋外の足跡については、夜の積雪が消してくれることに期待し、ばれたとしてもお茶をご馳走になろうとサロメの家を訪ねて行ったことにすれば良いということになった。

続・アイヌの集落

・アイヌの集落で合流。一行は情報を共有しつつ今後の行動方針を練る。
・マシューにリグニーラットの尻尾を提供。**あまりに早い狩りの成功に感心するアイヌ。**
・サロメの火山研究所の位置を絞り込むためにマシューに遺跡のことを聞くと、**山の中腹、氷漬けのヘラジカが発見された場所の近くに石室があると教えられる。サロメの住居から北北西に15分ほど歩いた場所**らしい。
・他の遺跡について聞くと、**雪山にはウェンカムイが蔓延しているから近づくなとサロメ先生から言われていてアイヌは近づかないことにしている**ようだ。
・現在、山の南東に遺跡が残っているが、現在はウパシカムイが居座っていてなかなか近づけない。
・**ウパシカムイの進路は見張ることで予想ができる**という。
・ヘラは白熊の毛皮をクッシャロに預けてレイナのための服をあつらえるように依頼。完成は二日後の夜の見込み。
・気が付いたら16時。そろそろ夕方になるので戻ることはできなさそう。
・**フルハウスを作るとアイヌの迷惑になるので、アイヌの客用のテントを借りる**ことになった。
・夜はクラフトに精を出す人とカムイの話をする人に分かれる。
・マシューがウパシカムイについて話をしてくれる。
・**ウパシカムイは、はるか太古に起こった滅びの時に世界を覆った溶岩を冷え固めた極雪の大カムイだった。**世界を覆う溶岩はとどまることを知らず、ウパシカムイとの戦いは幾日にもわたって続いたが、やがてその溶岩は何処へともなく消え去った。**世界を覆う溶岩が生まれ出でたのが、伝承によると500年前の（アイヌの居留地近くの）この山だった。それ以来、ウパシカムイは自らの敵を見失ったまま彷徨っている。**
・**ウパシカムイの考えはマシューには分からないが、直接対面をしたら死ぬ**ことは分かる。**アイヌは星霊術の概念を知らない**ようだ。過去に一族の勇者がウパシカムイに挑んだがみんな氷漬けになって死んだ。それ以降は遠くから見守って近づかないことにしている。
・**ウパシカムイは滅びの七夜クラスの強大な災害霊**だと分かった。今は南東の遺跡付近にいるがこの先どうなるかは分からない。
・アイヌは300年前に噴火で滅びた文明があることだけは知っているが具体的なことは分からない。300年前の噴火も伝説として残っているのみ。ミストとスルーズも300年前の噴火で、近隣で一番文明が進んでいた国が滅び、溶岩に覆われた極寒の地を復興するのは困難なため流刑地として使うようになったということを知っているくらいだった。
・夜霧谷の知識が欲しいところだが、**ニブルヘイムにすぐに戻る方法を検討したが有効な方法はなかった。オーディンからはスルーズに初志を貫けと神託が下りる。**
・ヘラはアイヌの娘たちと深夜まで恋バナその他のガールズトークをしながら愛のこもった木彫りを三つ完成させた。

・翌朝。**気温はマイナス30℃。**日にもよるがこのくらいの寒さはウパシカムイが来なくてもよくあるらしい。
・**防寒具を着ていても寒い。ミヤがウォーマーで全員を保温。**
・**ウパシカムイはなおも南東部にとどまる様子。アイヌの予想ではサロメ先生も戻ってこれないかもしれない。**
・**キムンカムイの気配が北西部（昨日リグニーラットを狩った区域）にあったという情報が入ったのでクッシャロはそちらを見に行くようだ。**

火山へ

・全員で火山の研究所に向かう。
・サロメ先生の家の周りには雪が積もって昨日の足跡がすっかり消えている。
・雪景色の中、**レンジャー勢が石室を発見。隣には氷漬けのヘラジカが見つかったという氷層もあった。氷の透明度が高く奥の方までよく見える。**
・石室に扉はない。中からは熱気と湿気が漂ってくる。中は曲がり角になっていてよく見えない。
・中に入ると妙な臭い。カーテンが下がっていた。カーテンには札がかかっていて**『秘密の花園』**と書いてあった。

恐怖！秘密の花園

・辺り一面が禍々しい、よく分からない魔力で満ちている。カーテンの奥からはぐつぐつと何かが煮える音が聞こえる。
・カーテンの奥ではラッコ鍋を囲む男が三人。相撲を取っている男が二組。全員全裸だった。石室内はピンク色の空気で満ちている。
・**石室では火山の地熱を利用して色々なことができるらしい。裸人教の神殿を作るつもりだったらしい。**
・ギャグ会話の応酬の後、引きずり込まれるかのように戦闘に突入。
・狭い石室内で裸人の男たちは七人合体を敢行。出られなくなる。
・非常識な裸人たちの素早さに対抗してミヤのアレイドで先攻を奪い取る。全員の攻撃により裸人たちは散ったが、最後の行動で大量の白濁液をぶっかけてきた。
・**白濁液はテオの献身的なディフェンスにより裸人たちに反射され、テオは『スペルマ スター』の称号を手に入れた。**合掌。

石室サウナ

・戦闘後も煮えていたラッコ鍋を撤去すると、その下から発光している魔法陣が出現した。
・**石室内の気温は42℃。**
・魔法陣を調べてみると、**コマンドワードを唱えることで別の場所に転送してくれる魔法陣**のようだ。
・どうやら、石室内にコマンドワードのヒントがあるようだ。シーフが速攻で石室内を調べて古代の文字を発見。
・考古学に通じるメンバーが文字列を解析。古代のエルフの文字であることがわかる。そこからさらに、上位下位魔法帝国語と、エルフ語と竜語の知識を動員してそれを読む。
・**コマンドワードは『ヴィ・ダーヒィム』（我は欲するという意味）だった。**
・金属鎧のメンバーはそろそろ鎧が赤熱してきた。地形が熱射になったようだ。**ミヤが全員にクールをかける。**
・この場所は目的の場所に向かう玄関口だったようで、祭儀に使う部屋だったようだ。神殿の玄関口に構造が似ている。
・ヘラとアリーヤはヘラジカの埋まっていた場所を調べに行くがよく分からなかった。
・ここで**ラッコ鍋の蒸気により突然発情してしまう効果が発生。**ヘラ（と、ミリアとスルーズ）が犠牲になるが、ミヤが治療する。
・**ラッコ鍋の蒸気にはベスポーションと似た効果があった**ようだ。発情中は集中できない（スタン状態）のと病気の進行が止まる効果があった。ベスポーションとの違いは沈めるか発散するまで発情が続くこと。
・セフィとメイファはガスマスクをつけた。
・依然として存在感を保ち続けるラッコ鍋。北海では『まぁ、食わないことはない』という程度の微妙な認知度。
・**ラッコ鍋を食べてしまうか外に出すかで選択を迫られる一行。**クックマスターの知識では、**ラッコ鍋には、発情、病気の進行の停止、行動不能の一時的な回復などの効能がある**ようだ。
・**レシピの推定はクックマスターが食べれば可能**と分かり、**意を決したメイファとミヤが人身御供となる。**
・発情したメイファはセフィの歌に乗せた魔法により治療され、なんとか**ラッコ鍋のレシピを記録することができた。**ミヤはスロット交換により難を逃れた。用が済んだのでラッコ鍋は外に出された。
・研究室に転移するに先立って、貸し借りしながら**ガスマスクを装着する一行。**
・ミヤがコマンドワードを唱えて、一行は転移を行った。

灼熱の研究室

・転移先は20m×20mほどのワンルームの研究室。実際は機材で埋まっていて動ける範囲は10m×8mほど。
・気温は50℃。クールをかけている状態で体感気温が34℃。出入り口は一切なく、溶岩の中にぽつんと存在している研究室のようだ。なぜ溶岩の中でこのような部屋が存在できるのかは謎。
・部屋の中は10秒ごとに赤い光に包まれたりそうでなくなったり。室内ではクリスタルオーブを所持していないとレベルを失ってしまう。ステータスのボーナスは使用可能。（知識系スキルのみレベルを使える）
・室内にスィンカーがいるわけではない。
・室内には大きな筒状のもの（炭疽菌の培養容器と思われる）が置かれていて、一番奥に台座に乗せられた種のようなものが置いてある。
・奥のカプセルの近くに机があって、その上に色々と研究資料が乗っている。トラップはなさそうだが、奥の種のようなものから禍々しい魔力を感じる。
・机の上の資料は炭疽菌に関するもの、種のようなカプセルについてまとめられたもの、日誌の続きが置いてあった。これら資料はサロメがもはやこの研究室には戻ってこないと判断してすべて回収した。
・サロメの日誌の続きについては別項目にまとめた。
・種のようなカプセルを鑑定するとケイオスシードだった。
【ケイオスシード　古代の魔力を貯蔵するために作られた秘術の結晶。これを作り出せる魔術師は現代には居ないと言われている。ロストテクノロジー。一説によると魔力だけでなく様々な物を封入するための封印容器であったと言われている。これを破壊するには、アーティファクトを破壊するほどの強い衝撃が必要となる。噴火レベルの爆発、衝撃を受けない限りは決して壊れることがない】
・ケイオスシードの作成メモがあったが、高度すぎて何をしているのか理解できない。アンティパスー族はケイオスシードを研究していたようだ。中に培養したウィルスをすべて封入したと書かれている。封入、そして封印作業は完全であり、取り出す方法はないことが確認できる。資料にはおびただしい真新しい走り書きが小さな字でびっしりと書き込まれていて、その書き込みの内容の意味は解らないが、絶対に成功させると言った類の執念が感じ取れる。
・中の炭疽菌を除菌するには、このケイオスシードを壊すしかないようだ。壊すにしても、大噴火と同じレベルの衝撃が必要になる。ウィルスを即座に除菌するための熱を伴った衝撃が必要。
・噴火によって、ケイオスシードが打ち上げられ、マグマと共に空中に花火のように射出され、爆発。中にはいっている炭疽菌が周囲の火山灰を汚染し、汚染された火山灰が大陸本土まで風に運ばれて撒き散らされる。そういうシナリオのようだ。原因不明の死体を媒介に菌が繁殖。それを鼠が運び、水などを汚染。たちまちパンデミックが起こり、大陸中が炭疽菌に包まれる、などというシナリオも最悪覚悟しなければならない。
・前回の噴火では上手くケイオスシードが破裂せず、大方除菌されてしまったのだろう。ニブルヘイムまでにしか火山灰が降り注がず、失敗したのでやり直したと思われる。夜霧谷が無事だったのは、霧のお陰だろう。火山灰が水分を含んで地面に落ちるので、霧に包まれた谷は無事だったと思われる。
・今回の試行はそれら失敗を踏まえてのものであり、サロメ先生の企み通りの結果がもたらされると思われる。
・ヴォルケイノが噴火エネルギーを吸い続ける前提でもあと一週間で噴火が発生する。溶岩の中にスィンカーが現れて、溶岩に呑まれて吸収される。スィンカーは星のエネルギーの集合体であり、スィンカーはそのままエネルギーに転換されてマグマの動力源になる。現在、この火山は星から無限に力が注ぎこまれている状態。星まるごとのエネルギーはたとえヴォルケイノでも吸いきれるものではない。このまま噴火が発生すると、フルーナ・ギル並みの大星霊が生まれてしまう。しかも疫病をばら撒く特性が付与される。
・スィンカーの狙いはケイオスシードだろう。マグマの中の研究室jにあるのでスィンカーから逃げおおせているとも思われ、この石室から持ち出された時点で、おそらく一行は殲滅型スィンカーの群れに囲まれるだろう。ケイオスシードを破壊できるのならスィンカーは現れないはず。
・これまでスィンカーは撃退されるたびに強力なものが送られてきた。これまでマグマの中に何度もスィンカーが消えているからには想像を絶する強力なスィンカーが送り込まれているだろう。
・ケイオスシードを破壊するためには衝撃が必要。炭疽菌を除菌するためには熱が必要。ケイオスシードを火口に沈めるだけでは解決にならない。
・噴火が発生すればマグマ内の研究室も壊れるだろう。
・セフィがサロメを救うにはどうすればいいか、フレイヤに神託をあおぐ。フレイヤからは『勇気ある者よ。力なき者に力を。汝に力が無ければ、力がある者に頼りなさい』とお告げが下りた。
・サロメの目論見では『ループしていることはばれていないはずなので、無害に振る舞って噴火を待てばいい。善良な医者を演じていれば冒険者は怪しみながらも様子を見るだろう。以前は無駄に火山に様子を見に行ったので問い詰められたのだろう。火山にさえいかなければ冒険者は詰む』
・ウパシカムイとの対話が可能なのはエンカウンターができるドルイドのみ。それ以外は意識を向けられただけで即死。上位の大星霊との対話では怒らせた時点で失敗。気の利いた答えが返せなくても失敗。失敗は死を意味する。また、失敗の場合、被害は自分が死ぬだけで終わらない可能性がある。
・まずは研究資料を解釈するためにも、ウパシカムイの情報を得るためにも夜霧谷に行く必要がありそうだ。

続々・アイヌの集落

・石室を経由してローズの歌を利用してアイヌの集落に戻る。
・はぐれキムンカムイの狩りには成功したようだ。マシューが解体しているようで、熊鍋を振る舞ってもらえた。
・はぐれ白熊の雄は人を襲ってウェンカムイになることがあるという。
・**熊鍋のレシピは秘密ではないらしく、ちゃんとレシピを教えてもらえた。**
・ヘラが依頼していた**白熊の毛皮の仕立ても完了して、ベア・レザー（雪迷彩仕様）として完成した。**

ニブルヘイムに帰還

・ローズの歌によりニブルヘイムに戻ると既に夕方だった。
・エドワードは既に船出したようでいなかった。**マーナーナは海岸の方に黄金アザラシを獲りに行った**という。
・全員で海岸の方に移動すると、マーナーナが巨大な黄金アザラシを棍棒で殴っていた。既に同じことを五回しているという。この時間に海岸に黄金アザラシが来るのは分かっていたようだ。
・ゴールデンワンダラーと呼ばれるアザラシの突然変異種。この時期に捕獲できるのはかなり珍しい。捕まえると一攫千金のチャンス。
・**マーナーナは、すぐに一行に金が必要になるだろうからと黄金アザラシを譲ってくれた。**
・**マーナーナには一行が翌日に夜霧谷に行くのも分かっているような様子。**
・交易所はまだ開いていたようなので、全員で交易所まで引っ張って行って、**ヘラが美貌を利用して売却した。60万セレン。**
・宿に戻るとスルーズとヘラはマーナーナに会いに行く。**テレサが夜霧谷に入り、サロメが転移により帰った**という話を聞かされ、明日に備えた方が良いと言われる。
・朝起きると、6時に**ドロシーと接触に成功。転移により夜霧の館に移動する。**

夜霧谷の館

・ドロシーの転移術で夜霧谷に移動。輪舞のできるディーヴァ以外は二時間の安静かリバースすることで動けるようになる。魔法での治療はできない。鎮静剤・ダウナードラッグ・イブのどれかを飲むことでも治療できる。
・ディーヴァのローズ以外は崖に向かってリバースした。
・深い霧のお蔭で太陽光は届かない。日光に弱い種もここでは制限なしに行動できる。
・ドロシーに連れられて夜霧の館に入る。朝なので娼館としてはOFFタイム。
・中ではテレサが魔界貴族を相手に神の道を説いている。改宗しそうになる小悪魔にツッコミを入れているリーン。
・テレサに助けられた礼をされる。テレサには遭難した時の記憶はなく、気づいたら助けられていたという。
・お茶を飲もうとカフェスペースに行くと赤いドレスの女性カーミラと褐色肌の男性ギュラがお茶をしている。ドロシーのことをモニタリングしていたようで、待機していたと思われる。
・カーミラとドロシーに事情を説明する。サロメに計画に対し早速厳しいツッコミが入る。
・カーミラによると風向きなどの天候予測が甘く、実際に想定通りに火山灰を散布できる確率は低いらしい。炭疽菌自体は遊牧大陸ではありふれた病気のようで、現地では腐食病と呼ばれているとのこと。
・ケイオスシードの破壊手段としてスパイラル・フラムという超爆弾を売ってもらった。ドロシー作の時限装置付き。赤いボタンを押してから6ターンで爆発するとのこと。スパイラル・フラムならケイオスシードを破壊してついでに除菌も可能なようだ。ヘラが対価の58万セレンを現金でポンと支払ったことに驚くドロシー。
・ウパシカムイについても質問をする。カーミラとギュラによれば、雪の大星霊エメという存在だという。火山の周りを飛んでいる白鯨と表現された。エメは第二次惑星調査団の古奈雪乃という子のことを探しているらしい。彼女についての詳細は第二次惑星調査団の生き残りがいれば分かるようだ。第二次惑星調査団はナンジェイ島にいたようだ。ラブフォーンなら情報を持っているかもしれない。古奈雪乃は炭疽菌に感染して死んだらしい。エメは怒って感染源を氷柱に閉じ込めたという。エメの悩みを解決できれば協力してくれるかもしれない。『永遠の命』とか『命の水』とか、死なないはずのものが死んだのはなぜか理屈が納得できないという。
・第二次惑星調査団は300年前に飛来して世界のあちこちで災害霊と戦っていたらしい。結局世界の敵と認定されてスィンカーに滅ぼされたという。実はニブルヘイムの街の住民が火山の噴火だと思っていたのはスィンカーの大発生だった。カーミラが流刑民に説明するのが面倒で、火山が噴火したということにしたようだ。その証拠に火山の噴火にしては遺跡が無事に残っていた。つまり、遺跡は第二次惑星調査団の基地だったということになる。石室の正体はフルーナ・ギルとエンカウンターするために作られたものだった。『ヴィ・ダーヒィム』とはサンスクリットの言葉だとか。サンスクリットと言われても分かる人はいなかった。
・第二次調査団も人間だからちゃんと死ぬ。アンブロシアも長生きしたが死んだ。だとすればエメが死なないはずだと言っていたのは何だろう？
・ギュラによると、ホオヅキの冒険者からはエリの残り香というよりはアインスの残り香がするらしい。
・受け取った時限式スパイラル・フラムは赤いボタンを押すと6ターン後に爆発する。誤爆注意。スパイラル・フラムの爆発のショックで噴火が発生する恐れもあるが、氷の災害霊がいればそのショックは押え込めそうだとドロシーからアドバイスを貰う。スパイラル・フラムの実験映像を見せてもらうとますます不安になるヘラとメイファ。冷静なミヤ。ドロシーは好きなところに転移させてくれるようだ。
・カーミラとギュラにヘロディアにそそのかされたサロメを元に戻す方法を聞く。ドロシーが言っているのは物理的に殴るのではなくて精神的なショックを与えること。正気のままなのだから考え方が変わる材料を提示すると良いとカーミラは言う。ギュラからはアンティパスの系譜ならサロメとエメの間にも因縁がありそうだから自分たちで調べてみると良いと言われる。
・ギュラに挨拶をするフラウとレイナ。ギュラとフラウは初対面だったようだ。ギュラの顔をじろじろ見ていたことを謝罪したフラウをギュラは頭を撫でて褒めた。
・カーミラによると、炭疽病の本場の遊牧大陸でも治療法は見つかっていないようだ。しかし、怪しい肉を食べない・死肉は食べない・死体に触らないの三つで予防はできる。
・テレサにも話を聞こうとロビーに行ったがテレサはお籠もり中。数時間は出てこない。リーンに命の水のことを聞いたら神の話はするなと怒られた。
・カーミラに不死后の杖のことを聞いたら在庫が20本くらいあるらしい。デイモスが量産するから見つけるたびに回収しているらしい。デイモスが次に来るのは2～3年後のようだ。
・ギュラが帰るついでに送っていくと言うのでリリーナに話があるというドロシーと一緒にフルナ・ユキノについての情報を得るためにラブフォーンに接触しようとホオヅキに転移する。
・一方でアリーヤとヘラとレイナはテレサ待ちで夜霧館に残った。

ホオヅキに帰還

・ギュラの転移術により一瞬でホオヅキの医務室に移動する一行。気づいたときにはギュラは消えていた。
・リリーナとドロシーは最悪の事態を想定した検疫体制について相談に入る。一行はラブフォーンがいる食堂へ。
・食堂でレシピ帳にされているラブフォーン。
・ラブフォーンからフルナ・ユキノについての情報を引き出そうと話しかける一行。
・**フルナ・ユキノはラブフォーンの先代の所有者だったらしい。アンティパスは現地協力者の名前だった。**
・**フルナ・ユキノは第二次調査団の星霊討伐部隊のメンバーで、星霊と会話をする特殊能力があった。その能力は分析・再現されて、今の星霊術のエンカウンターができた**という。そして**炭疽病と類似した病気にかかって死んだ**と知らされる。優しい女性だったらしい。
・この世界の炭疽病は地球の炭疽病とは似ているが違うものだった。情報不足によってデバイスリフレクターが完全には再現できなかったらしい。
・**フルナ・ユキノは滅びの七夜のうち海王イル・スオウ（現在は船長ファイサリスが所持）、暴風カタリーナ（現在はキミリア元帥が所持）、冥王ヨヘン・ハイム（現在はドロシーが所持）の説得に成功した**という。フルーナ・ギルは通常討伐で封球にされたが途中でロストしたと記録にある。
・**フルナ・ユキノとエメの交信については記録がある**らしい。しかし、今は**ラブパットという再生機器がない**という。
・ラブパットは賢者の石を加工して作られた、千里眼と呼ばれる透明なガラス板のようなものらしい。どうやら、**カーミラが持っていた千里眼と同じもの**のようだ。エリザベートが使っているのはただの賢者の石らしいので、その上位機種のような扱いと思われる。
・**300年前のアンティパスの記録はないが、フルナ・ユキノの記録の中に映っているらしい。名前はヘロデ・アンティパス。ヘロディアと名前が似ている。ユキノが病死する寸前の記録もある**という。
・夜霧館に転移するまでにスィンカー戦で消費したアミュレットの補充をしていく一行。
・再び医務室に戻るとリリーナとドロシーの話も終わっていた。ドロシーの転移術で夜霧館にUターン。

続・夜霧の館1

・早速映像記録を再生するために夜霧の館に戻る一行。崖リバースを超速で済ませてカーミラの元に。
・さっそく**千里眼を借りようとカーミラにお願い**をする。買うと一千万セレンを超えるらしいが、夜霧館から外に持ち出さないならと使用許可が下りる。間にコントを挟みつつ客室の一つを借りて上映会を開催。
・ついでに**腕の良い人形師が夜霧館にいないかとカーミラに確認するセフィ。いるという答えが返ってきて抑え目ながら狂喜するセフィ。しかも、ルシェ・ブランが遊びに来ているという。**慌てて挨拶に行くドロシー。
・**夜霧館は、世界中から特権階級があつまる社交場。密談の場にも使われる。**娼館でもあるが、そういう場を提供するために**世界から要請を受けて作られた場所**でもある。だから、カーミラたちのようなはみ出し者たちの安息の場所であるという。
・借りた部屋はそこそこの広さの部屋だった。**再生される映像記録。内容は別項目に収録**する。
・それぞれの想いで映像・記録を受け止める一行。
・外に出ると覗きこんでいたカーミラがユキノの純粋な生き方に号泣している。
・視聴が終わったあたりでお籠りから出てくるテレサ。
・**ヘラとテレサを交えて命の水についての話に**なる。
・命の水はバイブルの中に書かれている記事に登場するという。

命の水についてのテレサの解説

命の水について触れられているのは、新約の聖典にある、ヨハネによる福音書の4章1-30節に記されている記事がそれに該当します。
人々に負い目のある生き方をしている女性が救い主に出会う記事ですが、ここでは命の水という単語をつかって、救い主から喜びの人生を女性が与えられるという内容が取り扱われています。
ここで救い主が言う所の命の水とは、私達の言葉に治すと「Life Moisture」、人生の潤いという意味になります。
ここで出てくる女性は、「もっと人生が上手く言っていたら」「人目を忍んで水をくむ仕事さえしなくてよければ」「もっと人を見返せたら」 と、自分の状況が変わることを切望しています。
それに対して救い主は、「あなたに必要なのは、貴方を本当の意味で承認し、貴方の価値を認めてくれる方、すなわち神に出会う事だ」と教えます。
人間、物を手に入れたり状況が変われば幸せになれるととかく思いがちですが、それはまさに渇望というもので、後々限がありません。その渇きを本当の意味で満たせるものは、「あなたはそれで良いのだ」と、認め、愛してくれる存在ではないでしょうか。
聖書は究極的に私達を愛してくださるのは神である故、神による人生の潤いを得たものは、生き生きとした人生が約束されると説いています。
その生き生きとした人生が、今日始まり、明日も続き、そして死んだ後も続いていく。それゆえに、その命（人生）は永遠に至るのです。 永遠の命と は、生命活動の永久的な断続という意味だけではありません。
そして、終わりの日には、神を信じる者は新しい身体と、終わらない命、そして神の子としての 身分が与えられ、新しい世界の管理者となると、聖典は約束しています。
まぁ、それを信じるか信じないかは個人それぞれではありますが、たとえ状況が変わらないでも、自分の生きる意味や、その目的、また自分を承認してくれる存在。それは神を信じる信じないにかかわらず、誰にでも必要な命の水なのではないでしょうか。

解説後

・それぞれが命の水と永遠の命を考える。
・状況の分からないヘラとテレサ。感情を持て余して上手く説明ができないメイファ。
・ラブフォーンはもう一度ヘラとテレサのために記録を再生した。視聴後、テレサとヘラはユキノのために祈りを捧げる。
・永遠の命と命の水を言葉通りに受け取って苦しんでいるエメにかける言葉が見つからず涙を流すメイファ。
・ユキノは終わりの日の復活と永遠の命を信じて死んだのだからそれを伝えれば良い。やがて、来るべき日にユキノは、彼女の信じていた通りに復活するのだから、待っていてあげてくださいと言えば良い。と言うテレサ。
・ユキノは嘘を言わなかった。エメもその言葉を信じて、そして今も信じている。その言葉が嘘になるかどうかは、あとは神の領域。あとは信じて委ねればよい。二人の絆を大事にしてあげれば良い。とテレサは言った。
・ユキノは嘘をつかなかったし、必ず言葉の通りになる。それを信じることが、いわばエメにとっての人生の潤いになるだろう。それが命の水。
・エメはそれが嘘ではないかと不安になっているから、大丈夫と言ってあげればいい。その日はいつか必ず来る。ユキノはそれを信じ、エメはユキノを信じた。だから、その日は必ず来る。信じたものは信じたものはいつか現実になる。そうヘラは言う。
・ただし、テレサには懸念があった。聖典では死んだ魂は土の中で安らかに眠り復活の日を待つことになっている。しかし、実際は善人も悪人も赤い部屋に囚われて苦しめられる。赤い部屋を打ち壊して魂を解放するのがテレサの使命なのかもしれない。赤い部屋を壊さなければユキノとエメは最終的に再会できない。
・赤い部屋に囚われた人を救出して赤い部屋をつかさどるデバイスリフレクターの位置を特定すること。ユキノを選択的に開放することはできないが、赤い部屋を破壊できれば最終的にはユキノを救出できる。しかし、それはすぐにできることではない。
・ヘラは死霊術が赤い部屋から魂を救うことに繋がらないかテレサに確かめる。やり方にもよるが一時的にでも魂を現世に連れ戻すことは魂の安息につながるとテレサは答えた。
・ミヤは特定のデバイスリフレクターを壊しても、すぐに他のデバイスリフレクターが赤い部屋を再生しないかと不安を口にする。しかし、テレサはデバイスリフレクターはあまりにも多くのモノを再現しすぎた。デバイスリフレクターは破壊すれば再生することはできないだろうと答える。
・エメに命の水を取り戻してあげることができれば、エメは協力してくれるだろう。そうテレサは言った。

続・夜霧の館2

・エメにバイブルの内容を聞かせる試みについて考える一行。
・ユキノをエインヘルヤルとして呼べないか考えるスルーズだがそれも無理そう。
・ドロシーはホオヅキに戻るという。アイヌの村に送ることも可能だがラブフォーンを連れては行けない。
・リリーナは心配はしていないようだ。
・最初にエメに話しかけるのはメイファがすることになった。
・テレサは一度ホオヅキに戻って次の旅に出かけるようだ。
・テレサはサロメを説得するのに、アンティパスの一族を縛るきっかけになった言葉について訴えかければ良いと言った。その言葉はアンティパス一族にとって、呪いにも祝福にもなる。今のサロメにとっては呪いになっているが、その言葉が祝福になることが有れば、それがサロメにとっての命の水になるだろう。聖典をしっかり読みなさい。それがきっと一行を導く。
・そして一行はドロシーの転移でホオヅキに戻る。

いったん、ホオヅキに

・ホオヅキに戻ると、テレサは次の旅に、ラブフォーンは元の部署に戻った。
・事情が分かったところで、もう一度サロメの家を捜索する必要がありそうだ。
・リリーナにお土産を渡したヘラは、お返しに鎮静剤とアミュレットを貰った。
・その他にも補充を行っていく一行。
・まずはサロメのスケジュールやマーナーナと会えないかと全員で連絡船を使ってニブルヘイムに移動する。

ニブルヘイムへ

・魔女の再会亭に来た一行。酒場では身なりの良い穏やかそうな老紳士が紅茶を飲んでいる。
・マーナーナは見たいものがあると言ってチェックアウトして出て行ったようだ。馬ではなく徒歩で出かけた様子。
・今日は診療所の診察日ではないがサロメは街に買い出しに来ているようだ。次の診察日は五日後。想定される噴火の日と同じ日だった。
・フラウも紅茶を貰い、老紳士に話しかける。喫茶は紳士の嗜みらしい。
・老紳士は一行が道に迷っているとみたようだ。
・フラウが、大事な友達が遠くに行って悲しんでいる人を見たらどうすればいいのかを老紳士に訊いた。
・老紳士はその友達の状況は変えられないし変えたとしても感謝はされない。その友達にまた逢えると励ますことならできるだろうと答えた。それが死別であったとしても。『私たちは死んで終わりという存在ではないから。きっと必ず会えるさ。それが、壊れて終わりの人形でもない限りはね』
・また一緒に紅茶を飲みたいというフラウに老紳士は楽しみだと答える。フラウがホオヅキに招くと、お伺いしようと老紳士は答えた。
・商館にいくと、サロメとヘロディアが買物をしている。注文の品が揃うのに時間がかかるらしい。住居に帰るのは夜の予定だと告げて歯ブラシを買いに離れて行った。
・商人に訊くと、サロメたちが調達していくのは、スピリタス、歯ブラシ、石鹸など。石鹸は入荷待ちになっているので夜まで待ってもらっているという。夕方には輸送船が到着する。輸送船の出航は四日後の予定。
・面白いものを見に行ったというマーナーナを探して街中を駆けずり回るが、マーナーナは貨物船待ちで港のどこかにいるということくらいしか分からなかった。港は人でごった返してとてもマーナーナを探せるような状況ではなかった。

遺跡のゲート改め、第二次惑星調査団キャンプ跡地経由サロメ宅

・ローズの歌でホオヅキに転移をして、さらに呆れるドロシーに遺跡のゲートへ転送してもらう。
・今は**第二次惑星調査団のキャンプ跡地と分かったそこは、ユキノとエメの映像の背景と同じ**だった。
・周りを見回してもめぼしいものは特にない。エメも近くにはいないようで、天気も悪くない。
・サロメの住居に向かう。道の途中にアイヌの集落はあるが、いったんスルーしてサロメの住居に直行した。
・現在の時刻は18時。サロメの住居は施錠されている。
・アンロックで開錠してヘラとフォルトゥナが中に入る。暗かったのでフォルトゥナがランタンを点灯。
・**住居内は綺麗に掃除されていて使いかけの生活用品もすべて処分済。長旅に出るかもう戻ってこないつもりのようだ。**
・壁には色々額縁やら感謝状やらが貼ってある。**アイヌや街の人々の感謝が宝物のように飾られている。**
・何故か**台所には石鹸が十分に蓄えられている。**机の上の日誌はそのまま置かれている。
・**『アンティパスは良い医者たれ』と彫られた木の板が飾ってあったのでヘラがそれを回収した。**
・家探しを終えて夜になったので一行はアイヌの集落に移動した。

続々々・アイヌの集落

・アイヌの集落に行くと、クッシャロが鍋でラッコを煮ていた。
・ウパシカムイはいまのところ南西にいるという。
・**サロメ先生は家に戻ったきりだと思っているクッシャロ。出かけるときはいつも挨拶をしていく**らしいが…
・**ラッコは普通に美味い。肉をそのまま鍋に入れると媚薬効果が出るが、別の鍋で塩茹でにして余分な脂と灰汁を拭けば安全に食べられるらしい。安全版は単なる水炊きになっていた。**
・**翌朝、ウパシカムイの居場所を聞くと南東にいる**らしい。挨拶をしてから全員で出発した。

エメとの接触

・南東の雪原に移動する。ホワイトアウト状態だが、すぐには接触できない。
・吹雪の強い方向にどんどん進んでいく。
・ある程度吹雪が強くなったところでドルイドだけで固まってさらに前進。
・吹雪が強くなり、魔法抵抗が要求される。（失敗すると凍結）
・エンカウンター中は近づくのは良いが、**横から口を挟むと即死のリスク**がある。被害は自己責任となる。
・エメとメイファの対話が始まる。
・お約束の口上を述べると一蹴された。
・メイファはいきなりユキノの名前を口にしてしまう。不快感を表すエメ。
・エメが命の水と永遠の命について引っかかっていることを、メイファは解決しようという意味のことを言う。さらに不快になるエメ。
・ならばと、エメは命の水と永遠の命について問いかけ、死ぬ覚悟を問う。
・メイファは死にたくはないがこのままにしたくないと言い、ユキノとエメの間の日々が命の水だったと、大切だったことを言う。何故そのこと知っているのかと訝るエメ。
・なくならないはずの命の水がなぜなくなったのかと問いかけるエメに、メイファはエメがユキノを見失ったからと答えた。ユキノは死んでもいつか復活してエメと再会すると信じていた。それが永遠の命だと答えるメイファ。
・エメはメイファにユキノが死んだのかと問うと、メイファは確かに肉体は滅びたが、やがて復活するとユキノが信じていたと言う。エメとユキノが信じている限りそれは本当になると答えた。
・永遠の命についてはある程度の回答を得たエメ。しかし、命の水の意味を問いかける。メイファは自分が命の水になりたい。それがだめなら一緒に命の水を探したい。自分では足りないかと答えた。
・エメはそれでは足りないと言い、改めて命の水の答えを探して来いとメイファとのエンカウンターを保留とする。
・何が足りなかったのか考えるメイファ。エメは命の水は一貫してそこにあり続けるものだと思っているようだ。人生経験が豊かな人に教えてもらうのが良さそうだと気づく。概念の話になるので、相手が納得するものを提示する必要がある。
・元の場所に戻って仲間と合流して情報を共有する。
・スルーズ・ヘラ・ミヤ・メイファの間で何が足りなかったかで紛糾。
・議論の中でミヤがニブルヘイムでのフラウと老紳士の話を思いだす。
・結局、メイファはローズの歌の力でホオヅキに戻って老紳士に話を聞くことにする。

老紳士の機微

・ローズの歌でホオヅキに転移した、ミヤとメイファとローズ。船尾楼で老紳士を見つける。
・三人が名乗ると老紳士もレッツト・プーパーと名乗る。
・メイファはまずは状況を暈して相談を持ち掛ける。大切な友達が遠くに行って寂しがっている人の支えになるにはどうすればいいかと聞くメイファに、レツトはメイファがエメと初対面であることを確認すると、**最初から訳知り顔で近づく者は信用されないとたしなめる。**大きな間違いを犯していたことに気づいて落ち込むメイファ。
・**その人の力になりたいならまずは話を聞いてあげるべき**だと言うレツトに、メイファはどうすれば相手が自分のことを話したくなるかと質問する。**焦らずゆっくりとやれば良い**とレツトは答えるがメイファの焦りは募る。
・まだまだ自分も捨てたものではないと穏やかで余裕のレツト。
・長い間生きてきた人はどんなことを話したがっているのだろうかとメイファは問いかけるが、レツトは生きてきた時間など関係ないと言う。
・そして、**レツトが促してメイファはエメとユキノとアンティパスの話を洗いざらい打ち明ける。**
・メイファの相手が星霊だと知って余裕の表情で驚くレツト。彼はメイファが先走り過ぎたことを指摘する。
・レツトはユキノもまたエメと接触する前にエメについて調べ上げていたはずだが、その情報は使わずにまず友達になろうとしたと指摘する。**メイファは先に友達になろう、あなたのことを聞かせてほしいと言えばよかった**とレツトは指摘した。最初からすべて間違っていたことに気づき落ち込むメイファをレツトは、大星霊に話しかけて殺されず打ち勝ちもせずに時間を貰ったなどと言う話は聞いたことがないと、メイファはエメに気に入られているだろうと慰めた。
・メイファはエメにまず友達になろう、話を聞かせてと言おうと心に決める。
・レツトはさらにメイファに宗教ではなく文学の方向からアドバイスをする。「命の水」は生き甲斐だと思われがちだが、そうではない。【命の水を得る】という話に重点が置かれていて【命の水が底にあり続ける】というところには重点が置かれていなかったと言う。
・**【命の水を得る】というのは【ものの見方が変わる】ということを意味する。本当に大切なものは何かということに気づくということだった。**
・エメは本当に大切なものは何かに気づかずに、それが消えたと勘違いして、様々な言葉に惑わされて300年彷徨っていた。**エメはただユキノの言葉を信じて待っていればよかった。「ユキノは死なないのだから焦らずに待っていればよいではないか」というエメの言葉こそ正しかった。**そうレツトは語った。
・レツトはさらに語る。少しの外出や旅に出ることは関係の断絶ではないと言い、様々な言葉に惑わされユキノを疑い約束を破ったと思い込みその姿を探そうとしたところにエメの罪があると断じた。
・レツトの結論は**『テレサ殿の言われる命の水とは、大切なものがすぐそこにあるのだと気づくことと私は理解します。 ならば、エメ殿にとっての命の水は、「自分は安心して、ただ待っていればよいのだ」と気づくことで手に入るのではないでしょうか』**に集約される。
・メイファは確かに信じて待つことでいつかはユキノに会えるかもしれないが、それまでの寂しさはどうすればいいのかとレツトに問いかける。レツトは、待つのもまた楽しいもの。**再び逢えると確信していれば耐えられない寂しさはない。その寂しさにどう折り合いをつけるかは本人の問題で他人の踏み込む領域ではない**ととメイファに返す。
・『母を訪ねて三千里』では幼い子供が再会を信じることで三千里を踏破した。**人の心は強いものだからエメを信じてあげようとレツトは言い、人間関係は相手の話を聞くことから始まる**と付け加えた。
・人形が人間を語る皮肉に笑うレツトに、メイファはレツトのことを人形だとは思わないと言う。
・それに対して**レツトは自己紹介を改めて自分がルシュ・ブランの最後の人形にして百体目の【レッツト・プーパー（最後の人形）】であり、ルシュ・ブランと同じ人格を持ち、人からはルシュと呼ばれることもあるという。**
・三人はしばらくは船尾楼で紅茶を飲んでいるから、またご一緒しようとフラウへの伝言をもらい、レツトの元から辞去する。そして、ドロシーを探そうとしたら、ドロシーは船尾楼の窓に貼りついてレツトに萌えていた。
・興奮と共にルシュについて語り始めるドロシー。レツトは人形ファンなら見るだけでも畏れ多く、誰よりもすごい人形を作ろうとしたルシュの到達点がただの人間だったということに気づいて、もはや人形を作る資格はないと人形作りをやめたというルシュの逸話に触れて、人体錬成は彼へのリスペクトなのだとドロシーは早口で語った。
・興奮冷めやらぬドロシーだったが、**アイヌの集落の方へのゲートを開いてくれた。三人はゲートを通って再び仲間に合流した。**

エメとの対話再び

・アイヌの集落近くに戻ったミヤとローズとメイファ。
・アイヌの集落でウパシカムイが先程と同じ南東の雪原にとどまっているのを確認してから、スルーズ、ミヤ、メイファ、レイナで南東の雪原に向かう。
・南東の雪原では吹雪が一ヶ所で不自然に渦巻いている。そこにエメがいると確信してメイファは接近する。
・そして、エメとメイファはエンカウンター状態に入る。
・頑固なメイファに呆れるエメ。メイファは最初のエンカウンターでの非礼を詫びてエメに命の水について説く。
・メイファがレツトから学んだ成果を生かすことで、なんとかエメは命の水について納得することができた。
・あなたを知りたいというメイファにエメは言葉ではなく行動を共にしろと言う。ユキノと果たせなかった約束を人の子とすると言った。
・メイファのエンカウンターとコントラクトは成功する。エメとメイファは契約を果たした。
・アイヌの集落近くに戻って合流する。

紛糾

・噴火まであと四日。
・サロメの説得とケイオスシードの爆破の順番で一行の中の意見が合わずもめた。
・ケイオスシードを爆破する際にエメの力を借りることについてはエメの了解が貰えた。
・メイファはフラウにレツトからの伝言を伝える。名前を正確に発音するのに苦労しているフラウ。
・議論の中で、サロメ説得班とケイオスシード爆破班に分かれて行動することになった。
・まずはサロメの説得を行い、基本はサロメ説得が完了してからケイオスシードを爆破する。連絡がなくてもある程度時間が経過したらケイオスシードの爆破を強行することに。
・サロメをどう説得するかでまた紛糾する。わざと炭疽菌に感染することでサロメに治療させて医者としての初心を取り戻させる案について揉めた。
・班分けの原案をミストが取りまとめた。

留守宅に居座る（爆破班）

・一行はサロメ説得班とケイオスシード爆破班に分かれて行動する。
・ケイオスシード爆破班は今後の行動の利便性を図ってサロメの自宅で待機することとなった。
・気になっていた日誌の追記分を確認する。
『さようなら、思い出の住処。私はみんなに認められて、良いお医者さんになります』
・それぞれに感想を漏らすケイオスシード爆破班。
・サロメの家で夜を明かすがサロメは戻ってこない。

サロメを探せ！（説得班）

・サロメを説得すべくニブルヘイムに戻ったサロメ説得班。
・診療所に行こうと思ったら、まだ診療所の位置を確認していなかったことに気づく説得班。
・魔女の再会亭に戻ると、**既にマーナーナも宿泊していなかった。**
・**サロメは家に帰ったことになっていた。**（本当に帰っているなら爆破班と鉢合わせをするはずだが、そうではなかった）マスターから診療所の位置を聞いておいた。
・**盗賊ギルドでも、転移を使って移動するサロメの居場所が確認できていない。**（サロメが転移するのはニブルヘイムから自宅に帰る時だけだったはず。未知の転移先があったということか？）
・輸送船のスケジュールを確認すると**三日後に出航とのことだった。**しかし、出航当日は補給に専念するため、**乗り込むなら二日間で船に接触する必要がある。輸送船に民間人は乗ることができないことになっているが、密航者は後を絶たないので厳重な警戒態勢になっている**ようだ。
・**密航するならギリギリに乗り込んでやり過ごせ。密航を阻止するなら埠頭を見張れ。**
・診療所にも人の気配はない。足跡は追跡するには多すぎる。
・仕方ないので次の朝まで宿で眠った。
・翌朝、西の門で仕事に出かける農民に**サロメを見なかったか聞くが、遅くまでいたが帰ったはずだと言われる。**
・港の方へ行くと、交易商人が取引をしている。**マーナーナの姿はない。**
・取引されているのは薬品類が多い。酒・燻製等の嗜好品、紙とインクも取引されている。
・**船倉に入ろうとしたが船乗りに止められた。部外者立ち入り禁止らしい。**
・**船に乗れるのは、元々船に乗ってきた者か、前回この船から降りた者。サロメやアンティパス、ヘロディアという名前には船乗りも心当たりがない。**
・ちゃんと**管理はしているが密航は多い**らしい。密航者は主に犯罪者や流刑者などの島から出る権利を奪われている者。**密航者が見つかるのは行き先の港で。積み荷をチェックするときに分かる**ようだ。発見したら行き先の港の官憲に引き渡す。
・積み荷のチェックは出航前にも行う。
・**積み荷の搬入路は一つだけ。通関時は証書のチェックだけしている。船に潜り込むなら非合法な手段がある**ようだ。
・船外には荷馬車があるが、荷馬車の荷物をチェックしている場所が分からない。
・交易所の商人の方に話を聞きに行く。特産品を輸出して日用品を輸入する。基本的に公開されているものの取引しかない。
・**交易所での荷物チェックはNTCが行っている。表向きは取引の目付け役だが、密輸や密売がないかをしないように見張っている。**
・シーフギルドに行ってみる。密航の手引き流行っていないという。ギリギリの時間に船に飛び込む方法がないか聞くが知らないと言われる。
・アッラーに託宣を求めた。**『葉ではなく木を、木ではなく森を見よ』**
・**サロメが密航するためには、輸送船とどう関わりがあるのか、輸送船に関するうわさがないのか、今回の輸送船はそもそも通常のものなのかなど、情報が集まっていない。**
・宿屋のマスターに話を聞く。輸送船は剣王国のアパパカルガからの便らしい。**海が霧にまかれたから入港が五日ほど遅れていてその結果、港に人が殺到している。普段海に霧がかかるようなことはない。**
・**出航ギリギリまで喧騒は続くだろう、**商人は損をしたくないからギリギリまで取引を迫られるだろう。
・輸送船は独自の大商会が保有して、NTCにみかじめ料を払って安全を保障される。
・**海に霧がたちこめた時は、急に東風が吹いて霧が現れた。**風の方向は日による。**人為的に風を吹かせて霧を動かすには大規模な魔術か災害霊が必要になりそう。**
・今停泊しているのは**リオ商会の輸送船。**リオ商会は悪い噂が流れている。**密航者が多く裏のビジネスをしているのではないか**と言われている。**密航者はニブルヘイムのシーフギルドの誰かとグルになっていて、行き先の港で官憲に賄賂を払って逃がされている。**リオ商会自体はニブルヘイムにはない。
・**非合法に大陸に渡りたい密航者は吸血鬼広場の路地裏で何かをしている**らしい。**乞食に訊けば何かわかるかもしれない。**
・説得班は乞食に話を聞きに行く。

乞食は何でも知っている（説得班）

・吸血鬼広場の乞食に情報料を支払って情報を聞き出した。
・密航に使う船が入港する一週間ほど前に、盗賊ギルドのマーティンの手下（アルマー神殿の神父）が手引き人となって密航者を募集する。
・マーティンはNTCには内密でリオ商会と結託して密航者を船に乗せて、行き先の港の官憲に賄賂を渡して連行させたうえで逃がさせている。
・マーティンは元々大陸にいたが組織（NTC)に黙って悪事を働いていたのでニブルヘイムに左遷された。それでも懲りずに悪事を働いている。
・海に霧が流れるのは珍しい現象だったようだ。船の入港が遅れたためビジネスが予定通りできずにマーティンは焦っている。
・サロメも美しい看護婦と一緒に吸血鬼広場で密航の話をしていた。サロメは次の便で大陸に渡る。霧のせいで狂った予定のせいでマーティンは金が必要になり、リスクが高いサロメの密航の手引きをせざるを得ない。
・密航者たちは神父の手引きで待機場所に身を潜めている。待機場所は毎回変わるのでどこなのかは分からない。密航者は出航前日の晩に船に乗り込む。神父を尾行すれば待機場所がわかるかもしれない。それ以外に密航者に接触する方法は分からない。
・神父やマーティンに話をして密航者たちに会いに行くのはやめた方が良い。裏の商売を知られた彼らが何をするかわからない。

隠された書斎（爆破班）

・サロメ宅を拠点とした爆破班。せっかくなのでサロメ宅を捜索することになった。
・四畳半ほどの大きさの隠し書斎を発見。アンロックで開錠。本棚と机があり、一人座るのでやっとの状態。
・本棚の本は不思議な言語で書かれている。（銀河標準語+アヅマ語+暗黒語+下位魔法帝国語で解読可能）
・医学書のようだが、言語は分かるものの技術のレベルが高すぎて訳が分からない状態。
・手書きの写本ではなく、セレンで開発された活字のようなものを使っているようだ。（印刷物）
・巻末に『初版 2210年 トウキョウテイコクシュッパン／トウキョウ』とある。
・謎の医学書以外には星霊学/ドルイドについての本が置かれている。
・机の上にはメモがたくさん。
・密航のためのメモが書き込んである。七日前の日付に×がつけられている。『満員！』とメモ。吸血鬼広場、裏、受付。アルマー神父。と走り書き。
・風速計算についての計算メモがたくさんある。ドルイドとして高度な知識を持っているようだ。ボーフーの風の強さ、風速など。
・マナを見てみると、災害霊がいた気配が残っていた。
・災害霊の気配にエメが反応。『ポーフー？　言われてみれば懐かしい残り香を感じるな。昔この近海の海を吹き荒れて次々と行く船を襲っていたいけ好かない女だ。暴風の災害霊である。もし陸地で吹き荒れるなら、そうさな、10000人は殺せる規模の災害霊であろうよ。我ほどではないがな。200年ほど前から姿が見えないとは思っていたが、小石に閉じ込められて人に良いように使われていたのか。良い気味だ』
・先週の輸送船は海上に現れた霧によって中止になっていた。現在入港しているのはその代わりの船。どうやらサロメの仕業らしい。
・改めて蔵書を見ると、ボーフーを名指しした本はないが、風の災害霊に関する本が多い。
・サロメの蔵書から、サロメが洋上の船の上で暴風の災害霊を使って、炭疽菌に汚染された火山灰の拡散を加速させる意図が見えた。前回はこの暴風による拡散がなかったためにやり直したと思われる。
・棚の上にはシールロギアらしきビー玉状のものが置かれている。サロメはそれを持っていこうかどうか迷った挙句置いて行ったらしい。普通はシールロギアには風景しか写さないが、サロメはシールロギアを使って思い出を残していたようだ。
・ベッドの上で笑っている女の子、松葉杖をついてるおばあちゃん、お茶を一緒に飲んで笑ってるおじいちゃんなど、いろいろと笑顔の人が映っている。アイヌの人たちも映っている。小さな頃のクッシャロなども映っているようだ。テオが匂いを嗅いでみると、クッシャロが映っているものが一番匂いが強かった。
・封は景色をビー玉に封じ込める技術なので、確かに写真のような使い方もできる。持てる数が限られるので、ドルイドとしては何の意味も無い。サロメはいろいろな景色を封にして、保存していたようだ。
・ビー玉はサロメ説得の大きな助けになるはず。
・これら情報がないと説得班が説得に失敗する可能性もあるため、ローズの歌でホオヅキにテオとユーリを転送した。
・石室に異変がないことを確認した。

テオ合流（説得班）

・ホオヅキに転移したテオは魔女の再会亭でミルクを飲みながら説得班を待ち、情報収集から戻ってきた説得班と合流した。
・**爆破班がサロメ宅を再探索して得た情報を説得班に伝えた。**
・暴風霊シンディでも街のどこかに隠れたボーフーの気配は感じられない。
・**アリーヤとフラウとヘラはアルマー神殿の神父に会いに行く。盗賊ギルドで見覚えのある顔ではなかった。**神父以外は誰もいない。特に変わった様子はなかった。

爆破の検討（爆破班）

・ミヤとローズとメイファで爆破の段取りについて相談する。
・**エメに爆破の際に噴火をさせないようにしてもらう件について確認をしておいた。**
・スィンカーが何故研究室内に出現することができないのかが引っ掛かる三人。
・**天使の歌で現在位置と行き先は空間的に繋がるのかを考えてみたが、妖精のすることなので曖昧だとわかった。**
・ローズは天使の歌を使って研究室へ道が繋がるかを検証したら、繋がらなかった。**研究室に行くには必ず石室を経由する必要があることが分かった。これは出るときも同じと考えられる。**
・爆破の段取りを改めて考えた。
  1.スパイラルフラムをケイオスシードの傍に仕掛けて爆破タイマーのスイッチを入れる。
  2.転送魔法陣に走り込む
  3.研究室内を氷で閉ざす
  4.研究室から石室に転移
  5.石室から円環でホオヅキに転移
・上空から山全体に変わったことがないか確認した。特に変わったことはなかった。
・夜になってもサロメ説得完了の報告が来なかったので、次の日の爆破決行に備えて早めに寝た。

サロメを待つ（説得班）

・サロメを探し出すために、アルマー神殿の神父を見張る説得班。
・**日暮れになって神父は神殿を閉めて移動する。それを尾行すると、神父は港の倉庫の一つに入った。**
・倉庫は見張りもおらず重い鉄の扉に守られている。
・中の様子はよく分からない。発見を恐れて隠れて倉庫を見張る説得班。
・やがて、**神父とサロメとヘロディアがランタンも点けずにどこかへと移動する。**
・**神父はサロメとヘロディアを密航する輸送船に引き渡すまで離れないような雰囲気。**
・ヘラは三人を呼び止めた。

サロメ説得（説得班）

神父	なんですか、貴方達、こんなところで暗い中で呼び止めるなんて！ 予想外の事態に慌てる神父
ヘラ	……ごめんなさい。……少し…話したい……先生… 神父に謝罪してサロメたちを見つめるヘラ。
セフィ	……失礼、暗い中灯りのないまま歩まれていたので、足元が危ういかなとおもいまして。
神父	話すことなどありませんよ。明日にでも神殿にお越しください。
サロメ	いいのです神父様、少し話すだけですから。一応お伺いしておきましょうか。お話とは？ サロメが前に出てくる。
ヘラ	……忘れ物 ヘラは前に出て、テオから預かっていた景色の封じ込められたビー玉を、サロメに手渡した。
サロメ	……ふぅ。どれだけうまくやっても追いかけてくる。私と貴方達はどうあっても対峙してしまうようですね。私が三日留守にしたら解けてしまう、関心除けのまじないまで破られてしまうとは思いませんでしたよ。
ヘラ	……サロメ先生……
サロメ	申し訳ありませんが、私にはやらねばならないことがあります。言わずともその様子だとお分かりの様子ですね。行かせてはいただけませんか？
セフィ	——再会亭で伺いました。領主さんにも、伺いました。アイヌの方々からも伺いました。サロメ先生に助けられた、と。皆さん、サロメ先生についてはそう仰られていました。……貴方が助け、守ってきたものが、今あなたの手の内にあります。——それこそが、為すべきことをなした結果だと、私は思うのですが。
ヘラ	……セフィの言う通り……だよ…
	黙っていられなかったセフィはサロメに想いをぶつけた。それに同調するヘラ。
サロメ	そう思っていた時もありました。しかし、医者とは万人の命を救えるものでなければなりません。それに、私は人から認められたい。その為に血塗られた道を進む覚悟はもうできています。私は自分を正当化するつもりはありません。私はありのままに生きるのです。ありのままで血塗られた道を進み、有名になり、そしてさらに多くの命を救います。結果的に多くの命を救えるのですから、私はこれでよいのです。
ヘラ	……貴女に助けられた人が…貴女を愛してる…患者に、愛される以上に…人から認められる医者なんて…いるの？…私は……貴女のような…医者に…なりたいと思うのに…
セフィ	——まず一点。良い医者とは、万人の命を救える人のことではありません。人に寄り添い、営みを慈しみ、命に対して真っ向から向き合える心をもつ人のことです。そして、二点。ヘラさんの仰られた通り、サロメ先生は既に、貴女が助けたたくさんの人たちに認められています。血塗られた道を歩まずとも。——それでも多く、なお多くに認められたいと思うのであれば。貴女を拒絶した人たちを、真向から、真正面から、自らが正しいと正道を以って向かってほしい。——何度も失敗しては挫折しての、研究職としての私の願いも些か込めてはいますが。——ご自身を正当化する心算が無いというのならば。多くを救うという言葉は出ないと——。私は貴方に対して、そう願いたい。
フラウ	おねえちゃん、セフィさん…。

医療に関わる者として、尊敬の念を声を震わせながら伝えるヘラ。研究者として、サロメに対する想いが溢れ出てくるセフィ。何か言いたげなフラウ。

サロメ
あー。とりあえずゆっくりしゃべっていただけると嬉しいです。まくしたてられても何を言われているのかわかりません。……まぁ、しかし、とりあえず。確かに私を救ってくれた笑顔はありましたし、無名でもこの手ですくえる命があることに満足しているときもありました。……が、結局それでは大義は果たせないのです。延々と身近な2～3人の傷を治して喜んでいる生活に甘んじているようでは。私は、そして私の一族の悲願は決して果たされない。 正道はもう十分歩みました。私は邪道を歩いてでも上に行きます。

まくしたてるなと言いつつ台詞の長いサロメ、後ろから頷きながらにこにこ笑っているヘロディア。

ヘラ
……貴女の、悲願？

サロメ
アンティパスー族は良い医者であれ。良い医者とは救った命の人数です。2～3人救って満足しているのはただの偽善。自分の医者としての無能に甘んじているにすぎないのですよ。

ヘラ
確かに、救った命の数は…誇っていいと思う……でも……2～3人救い、それを喜ぶのは…偽善では…ない…。

サロメ
確かに偽善ではないかもしれません。しかし、それは目の前の2～3人しか救う力のない人間が行うならです。でも私は違う。私には大勢の人を救う力を持っている。私はすごいんですよ。私のこの知識があれば救える命は千や二千じゃ足りないんです。私は認められたい、私はもっと賞賛されたい。私は特別な人間なんです。私はこの気持ちに素直に、ありのままに生きることに決めたんですよ。

ヘロディア
すばらしい！それでいいんですよサロメ先生。あなたは特別な人間なのですからそれでいいのです♡

ヘラ
……貴女なら、邪道を歩まなくても…認められる。夜霧谷の、私の師匠も、友人も…貴女は凄いと…言っていた……。 そんな事、しなくても…いいはずだよ……

サロメ
夜霧谷の？　夜霧谷の魔物達の誰が私のことを評価してるっていうんです。数百年を生きる吸血鬼が私の事を評価でもしていると？　そんなわけありませんよ。

ヘラ
ドロシーという…ウイッカの先生……あと…リリーナ・クラウドという…私の師匠…。……貴女の求めたものは…血塗られた道の先には…決してない…。……その先にあるのは…畏怖と憎悪だけ……邪道の先には…邪道しか…ない……貴女は…私と同じ道に…来てはいけない……貴女は凄く…良い医者…なんだから…。

ドロシーとリリーナという名前が出たところで目を丸くするサロメ。しかし――

サロメ
言うに事欠いて随分と有名人の名前を引っ張ってきましたね。絵本に出てくるおとぎ話の登場人物ような方々ではありませんか。そんな二人が片田舎の貧乏医者を評価している？　ばかばかしい。信じられませんね。よしんばそうだとして、ならば私がこれからの偉大な功績をあげれば、もっともっと二人も私のことを評価するようになります。医者は功績こそがすべてなのですから！無名で学会にも碌に相手にされない医者のどこが良い医者だっていうんですか！？

動揺の見えるサロメは早口でまくしたてる。

サロメ
認められなければ藪なんです。腕があっても無視されれば人は救えないんです。最悪腕がなくたっていい、有名になりさえすればそれは良い医者なんですよ。誰も彼も実際に施された処置なんて気にしちゃいない。武器軟膏なんかまさにそうでしょう。有名になりたいんです。有名な医者こそ良い医者なんですよ。

ヘラ
……二人は…武器軟膏が誤っている事に…気づいてた…。…貴女が同じ事を言っていて…驚いていた、よ。……でも、全く効果がないわけじゃないことにも…気づいていた。……貴女は武器軟膏を否定するとき…ゆっくり、学会に話した？

セフィ　——あなたはその状況に、抗おうとしていたのですよね。

サロメの言葉を聴きながらペースを変えずに反論するヘラ。ぽつりと呟いたセフィ。

サロメ　ゆっくり？　間違ってるものを間違ってるって言っただけよ。私は。

ヘラ　何故間違ってるのか…何がいけないのか…貴女が言った通り…まくし立てられてたら、伝わらない……

サロメ　ちがう、私は悪くない。あいつらが私の話を聞かなかったのは、私が有名じゃなかったからだ。でも、この火山さえ噴火すればうまくいく。みんな炭疽病にかかって、私がその治療法を提示すれば私は有名になれる。こんどはどいつもこいつも私の言うことを聞く。私は良いお医者さんになれるのよ！

サロメの様子がおかしくなり追い詰められていく。後ろでにこにこしているヘロディアと対称的に、説得班はまたやり直しが発生するかと危機感を感じる。

ヘラ　……苦しい時は…道に迷った時は……その、ビー玉を、見るといい……。…… どれだけ月日が経っても、道に迷っても…それだけは…裏切らない。…その上で、それでもなお…行くのなら…。

サロメに近づいていったヘラだが、彼女もまたテレサと同様にこれ以上は言えないと、後ろを振り返る。サロメはビー玉から目を背けている。

サロメ　何が正しくて、何が間違ってるのかなんて、そんなの言われないでもわかってる。でもそれだけじゃ、私は何もできないのよ。だから私は、有名になるために、みんなのことを見捨ててでもって。何度も何度もやり直してここまできたのに、最後の最後で、こんなもの見せられたら、もう前に進めない。

突っ伏して泣き崩れたサロメにヘラは背を向けたままで言葉をかける。

ヘラ　……違う、貴女はずっと…後ろを見てきた…否定された…時を。…前は…これから…進むの……。

セフィ　——一人では難しいのでしたら、ドロシー先生や、リリーナ先生の力を借りることも。

サロメからヘロディアへ視線を移すヘラ。セフィは『力なき者に力を』とのフレイアからの神託を思い出し、サロメに声をかける。

サロメ　でももう火山は噴火するし、装置は爆発する。やり直しはもう火山が噴火するところより前からやり直せない。後悔したってもう遅いのよ！どうせみんな死ぬの！

ヘラ　…貴女の記憶にある私たちの仲間は……もっといたでしょ？…大丈夫…貴女の涙は…無駄に、しない

サロメ　何とかなるのですか？　今からでも。

サロメを励ましたそうとしていたフラウは、ヘラに促され、武器を預けてから、ゆっくり両手を広げてサロメを抱きしめる。

フラウ　…だいじょうぶだよ。先生、フラウたちはそのためにきたんだから。もう、うそをついたり、むりをしなくていいの。つかれちゃったなら、やすんでいいんだよ。

サロメ　……ありがとう。

フラウを抱きしめたサロメはすっかりうなだれた。心が折れてしまったように見える。

フラウ　…フラウはね、りっぱな先生じゃないから。むずかしいことはまだわからないけど。人を治すお医者さんがりっぱなお医者さんだとおもう、それが一人でもいっぱいでも。

サロメ　有名にはなりたい、でもその為にみんなを犠牲にはできない。もっと別の方法を考えて——

フラウ　うん、…別の方法？

サロメ　そうね、医者なんですもの。有名になるにしても、人を治す方法でなければ。ありがとう、もう一度良い医者とは何かを考えて、やり直してみようと思います。

セフィ　――それで、有名なお二方の力添えは要ります？一人ですと、眉間にしわもよるものです。

フラウ　うん…あのね、せんせい。せんにんもひとりがいないと、だめだとおもうから。…だから、…。…いまからも、絶対に護るね。先生のために、フラウたちのために。

サロメを抱きしめて背中を軽く叩いて慰めるフラウ。セフィはわざと軽い口調でサロメをなだめにかかるが――

ヘロディア　**いやいやいやいやいやいやいや**

ヘロディア　サロメ先生、何を説き伏せられているのですか。あなたそれで、納得して、何ちょっと良い方向へ向き直ってめでたしめでたしみたいになってるんですか。ねぇ。逃げられると思っているんですか。美辞麗句で飾り立てたところで、貴女はしょせん虐殺犯。もう貴女はこのレールに決意して乗ったのです。今更なんとかなったから無罪放免になるとでも思っているのですか？

ヘロディア　**大勢の人をもう殺しているんですよ？**

フラウ　…せんせいがやってきたこと、してしまったことは。そう、もとにはもどらないよね。でも、これからどうするかは、せんせいの自由だよね。

ヘロディアは説得がまとまろうとしているところで盤面をひっくり返した。びくっと震えるサロメ。フラウは負けずにサロメをフォローするがヘロディアは止まらない。

ヘロディア　あなたはもう進むしかない。あなたは多くの笑顔を踏みにじった。今更殺すための引き金を引いた相手に、たまたま銃が不発だったからといって、どの面下げて会うつもりですか？ 罪は清算されない。罪は消えない。一度吐いたつばは飲み込めない。やってしまったものは元には戻らない。

ヘロディア　**あなたはもう、そのまま先に進むしかない。それがあなたの罪なのですから！**

アリーヤ　ペラペラとよく回る口だな。

サロメ　……そうだった、私はもう罪びとだったのだった。皆さんごめんなさい、こんな私に手を差し伸べてくれてありがとう。でももう私は後戻りできない。その資格もありません。だから、力で押し通ります。私を哀れだとおもうなら。私をここで殺してください。

ヘロディアに煽られて、説得班の想いも虚しく、黒い霧に取り巻かれたサロメは杖を構える。

ヘロディア　素晴らしい、貴女はもう罪びとなのです。逃れられるはずはない。罪にとらわれたあなたは、もう行くところまで行くしかない。それが原罪の行く先なのです！！

フラウ　わかった。…、わかった。あなたの魂に安らぎあれ。絶対に、あなたを護る。

ヘラ　……貴女はもう…私たちの…患者…。…死にたがってる患者を救うのは…医者の仕事……貴女の病気…取り払ってあげる。……私も…罪人だ……その罪からは…目は背けてはいけない…。……私が貴女に教えられるのは…罪との向き合い方だけ……。

セフィ　――私は貴方を、一切哀れみません。受け取るのは覚悟のみ。

自分を諦めてしまったサロメ。罪人を完成させようと煽るヘロディア。それぞれの想いを胸に説得班とサロメとヘロディアとの戦端は開かれた。

サロメとの戦闘（説得班）

戦闘に先立って、スルーズがサロメを選定する。オーディンの神託はサロメの生死をスルーズに委ねた。
【サロメ　Lv10　術師。ドールマスター、ネクロマンシー、ノーブル、アルケミスト、タクティカルを修める。34歳。また星霊術を修める。固有職業：ウィッチドクター。大星霊ポーフーを使役する。良い医者になるために探求を続けた女は、やがて信用される医者に欠かせない要素である知名度に溺れた。古い「本物」の魔術師の家系であり、多くの大魔法を所持する。】
・ヘロディアは安全圏に退避。

1ターン目

・サロメは罪は許されないから、罪人として死ぬと言い、それでも**950年の歴史を誇る魔術師としてのアンティパスー族**の意地なのか、そう簡単にはやられないと宣言。
・サロメは魔術刻印により**レベル15のクリスタルゴーレムを召喚。**さらに**ガンドを使用。レイナ、フラウ、スルーズ、セフィ、ヘラをインフルエンザに感染させる。**（抵抗目標値は平目で11。感染すると全ての行動に-2ペナがつく）さらに集中（コンセントレーション）を使用。
【ガンド（真）：相手を指さすことで、病魔に陥れる古代の呪術。昨今指先で撃つ攻撃魔法が流行っているがこちらが本家。術者が知っている病気を指名して相手をその病気に陥れることができる。指名できるのは指をさせる本数（通常は5人、両手を使うと10人）まで】
【インフルエンザ：流行性のウィルス病。高熱、激しい倦怠感、関節の痛み、嘔吐を伴う。感染強度11、現在進行段階1、すべての行動に-2。治療にはヒーラーによる安静な場所での治療、もしくは達成22以上の病気回復系の術を用いる】
・クリスタルゴーレムは防御専念で左右上空に15mのZOCを展開。敏捷は24。
・セフィは得意のダブルキャストによりテレポートでサロメの背後を強襲。魔法剣スリープであっさりとサロメを無力化した。その結果、**クリスタルゴーレムがサロメの制御を離れフリーバトルモードに命令が変更される。**（1ターン目は全力防御）
・フラウの覇王剣は地を穿ち、ヘラはメディカルキュアで自分のインフルエンザを治療。アリーヤは後退しながらヘラにクイックムーブをかける。巨大なゴーレムに対し、レイナはマジックミサイルを撃ち込み、スルーズは懲罰の刃を突き立て、テオはパンチとキックを叩き込むが、どれもゴーレムの堅い守備に弾かれた。

2ターン目

・ヘラはグレートヘイストセルフで加速。セフィもダブルキャスト。エンジェルステップと人形のスーフィーで自己バフをかける。フラウは全力防御でZOCを展開してレイナとヘラとアリーヤを守る体勢。
・ヘラの連続ディスペルオーダーはゴーレムの圧倒的な魔法強度を破れない。
・セフィの魔法剣ブレイクがクリスタルゴーレムに炸裂。クリスタルゴーレムはレベルを保ったままでストーンゴーレムになってしまう。さらにニードルフリジットで追い打ちをかける。
・スルーズは召喚術、長い声のぬこでゴーレムをスタンさせる。
・アリーヤがアサルトで、テオがパンチとキックでゴーレムを攻めるが、アサルトでわずかに傷がつくだけで終わる、レイナは待機した。
・ゴーレムは背後のセフィとサロメにエリアアタックをかけるが、セフィのグランドディフェレクトに阻まれた。

3ターン目

・セフィはダブルキャストを続け、スルーズはワルキューレの行進を歌う。ヘラはネクロギアで命を削って魔力に換える。
・ヘラがドラゴンゾンビを召喚。フラウが幻影刃で斬りつけ、セフィがブルーティッシュボルトを放つ。テオがパンチとキックで、アリーヤがアサルトで追撃。
・スルーズの召喚術で脱力したゴーレムがセフィとサロメの方向に転倒。ドラゴンゾンビがサロメを咥えて離脱。セフィもテレポートで脱出する。
・ドラゴンゾンビに咥えられた**サロメが目を覚まし、石と化したクリスタルゴーレム（評価額五千万セレン）に絶望し、心が折れて降伏した。**

戦闘後（説得班）

・ゴーレムが一時的に石化していただけで修復可能と分かり安心するサロメ。
・ヘロディアはサロメの追い詰め方が甘かったと反省。思わせぶりな態度をとっておいてからの悪態をついて転移のような魔術で逃亡した。
・インフルエンザを神聖祈祷で治したヘラ以外の戦闘に参加した全員が再びインフルエンザへの感染判定。サロメの診療所に担ぎ込まれる。それぞれ全治一週間～二週間。
・神父は逃亡しようとしたがインフルエンザが発症して倒れているところをNTCの工作員に発見・捕縛された。神父が捕縛されたところでニブルヘイムのシーフギルドに査察が入り、密航に関わっていた一味が一週間のうちに（NTCに）御用となった。

爆破そして噴火阻止（爆破班）

・翌朝、サロメ説得成功の報告がないまま、説得班と打ち合わせたタイムリミットとなったので爆破に向かう。
・全員ウォーマーをかけて防寒具を着こんで石室に移動。地震の頻度が上がり不穏な空気に包まれている石室。
・石室でクールをかけてから魔法陣を利用して研究室へと転移する。マグマの熱で激しく熱くなっていて活動時間は10分が限界。
・ミヤ以外の全員は研究室の転送魔法陣の上で待機。その時になってエメが火山の爆発を抑える方法（第三解放）をメイファに提示する。ミヤがスパイラルフラムの時限装置をセットして魔法陣に駆け込んだところで全員で石室に転移した。
・第三解放とは大星霊とドルイドが互いを信頼して、大星霊が全ての力を解き放つこと。そのためには広い雪原に出てエメを解き放たなければならない。エメとメイファが話し合い、意志を確認する。解放後メイファが一人雪原に残されることに納得がいかないミストを説き伏せて、後で救助に来てもらう約束で第三解放をすることに。
・石室でメイファを残してホオヅキに転移する爆破班。メイファは雪原に駆け出して第三解放をする。
・第三解放でメイファに突きつけられた選択肢。エメを信じていったんエメを自由にするか、封印石へのリンクを保ったままにするか。封印石へのリンクを保ったままではエメを完全に信頼したことにならないし、それでは友達ではないと思ったメイファはエメを完全に解き放った。メイファの目の前に現れた巨大な白いクジラ。クジラが轟く声をあげると周囲の雪がすべて舞い上がりメイファの視界がホワイトアウト。
・メイファが気づいたときには、周囲の雪が消えて、火山の不穏な空気もなくなっていた。エメは行ってしまったかとしょんぼりするメイファ。
・しかし、エメは戻ってきてくれていた。思わず泣いてしまうメイファ。エメは自分を完全に解き放った愚かさに免じてもう少し付き合ってやるとメイファに告げる。メイファは救助に来てくれるという仲間との約束があるのでテントを張って仲間を待つことに。
・一方、ホオヅキに戻ったミストとミリアとミヤとローズは人形製作に燃えているドロシーのところに駆け込んで、第二次惑星調査団キャンプ跡地へのゲートを開いてもらい、メイファを迎えに行く。メイファが第三解放をしたところに行ってみると雪のなくなった地面むき出しの地にテントがぽつんと設営されていた。
・再合流して無事を確かめあう爆破班。うっかり火山の顛末をエメに訊き忘れていたメイファはエメに火山がどうなったかを聞く。エメ曰く、石室は破壊され全ては溶岩の中に消えた。噴火はエメが食い止めた。エメにお礼の言葉をかける爆破班。
・ローズの歌でホオヅキに戻る。

ニブルヘイムへ。そして終幕

・ホオヅキに戻った爆破班はサロメ説得の結果を確認しにニブルヘイムの街へ。
・魔女の再会亭でサロメの診療所がどうなったか尋ねると、サロメが来ているが重病人が出て病気が伝染るので立ち入り禁止になっているとのこと。サロメが仕事をしているなら説得は成功したと判断する爆破班は、診療所に確かめに行く。重病なら炭疽病かもしれないと心配する爆破班。
・窓から診療所を覗くとサロメとヘラが重病人（説得班と神父）を看護・治療している。あまり深刻ではない様子に炭疽病ではないと安心する爆破班。メイファが窓越しにヘラに成功報告をする。
・サロメは色々と吹っ切れてこれからも医者として生活していくと約束。ドロシーとリリーナと三人で会って話し合い、良い理解者と友人を得たサロメはさらに考え方が変わる。ラブフォーンは元の持ち主に縁のある人のところで働きたいとサロメの家に移動。看護師となりニブルヘイムで働くことになった。サロメの家の近くにワープポータルが建設されて、ホオヅキとの行き来が容易になった。サロメはホオヅキの非常勤の医師となる。
・夜霧館からは色々と祝いの品がホオヅキに届く。夜霧館やアイヌの集落などにお礼参りに飛び回るメイファ。
・ヴォルケイノは満腹になって帰還。レツトはホオヅキに人形工房を開き、ドロシーが嬉々として手伝いに通う。その噂を聞きつけて戸沢白雲斎がホオヅキに戻ってくる。
・マーナーナは再び現れることはなかった。また先の冒険で会うことになるだろう。
・セフィもインフルエンザから快復してから領主にお礼に向かった。（シナリオ外宣言）
・こうして冒険は終わった。

◆◆◆◆◆◆リザルト◆◆◆◆◆◆
報酬：3万セレン　獲得経験値：30000　FP：20　名声（知名度）：40　テオクリスタル：2個　経過：4週間

サロメの研究日誌（新記述追加）

15年前

○ウェンカムイについての記録

概要：

氷漬けのヘラジカの中から見つかった見えざる手を持つ見えざる支配者。目に見えないものの、確実に無数に存在する者であり、開発した望近鏡を調整したもので確認することができる。繁殖スピードは遅く、生肉や土壌で繁殖が可能な物であり、その反面、一度形成に成功すると、ある程度の耐熱、耐乾燥効果を持ち、様々なものに付着する。

症状：

この見えざる手には、症例から大きく分けて四つ程の別々の症状が出る支配者であると確認されている。現在、同じ支配者がここまで多様な症状を起こす例は確認されていない。

症状細分1：

症例の一つ、食用感染。この支配者が繁殖している肉を食べることによって感染する。これは主に腹部、特に腸に感染するようだ。一度感染してしま うと薬品による治療は不可能。試してみたがエリキシルですら治療は不可能であった。これを腸感染とする。一度腸感染が起こると、患者も一つの支配者のコロニーとなり、支配者の血液、唾液、体液、及び腐れた肉汁などが他の人間の内部に入り込むと、二次感染が起こる。ただし、空気感染は確認されない。

症例細分2：

症例の二つ目、これは接触感染によるもの。身体に擦り傷、切り傷、いずれか皮膚が損傷する要素がある時に、この支配者に汚染されたものに触れると、皮膚に感染する。この場合、腫瘍が現れて皮膚に広がっていく。但し、皮膚感染は抵抗できる症例も多く、死亡率は30%ほど。但し30%は腫瘍から体が 腐れ落ちて確実に死に至る。治療法はない。

症例細分3：

症例の三つ目。呼吸器感染。空気感染とは明確に分けられるべきであるが、汚染された肉などを焼却処分する際、灰などにとりついて辺りに舞う。これを吸い込むと肺に感染し、発症する。肺に感染した場合、皮膚や腸よりも始末に負えず、死亡率はかなり高い。このコロニーが粉塵等に混じった場合、たちまち辺りは大惨事になることが予測される。粉塵に汚染区域が接触しないように気を付けなければならない。

症例細分4：

症例の四つ目。……これはなに？頭の内部に支配者が到達しているのだろうか。症例が予測できずまったくわからない。頭を抱えてのたうちながら、24時間以内に必ず患者が死亡する。症例は少ないが、一番ひどい死に方をする。原因も解らない。なにこれ…こわい。

備考：

この見えざる支配者については過去に症例が見られない。仮にこの病を炭疽病。そして支配者を炭疽菌と呼んで研究を続行する。古代遺物のコーセーブッシツがある程度有効であることが確認されている。もしこの病気が広がったら…今のうちに私が対策を見つけなくては。

備考2：

培養には生肉などを定期的に用いてコロニーを形成させることが有効。火山内の溶媒室に保管すること。侵入はおそらく誰も出来ないが、間違えて立ち入らないように常々注意し、見ておくこと。

○その他の記述

（マシューは当時犠牲になった若者たちの遺体を焼いたと言っていたが、実際には）遺体は灰が舞ってしまうため焼却しなかった。遺体は一部を（治療法を見つけるために）研究用のサンプルとしてサロメが培養。それ以外は火山の火口に投げ込んで処分した。それ以降、サロメはニブルヘイムの診療所ではなく火山の近くに居を構え、炭疽菌の研究を続けることとなった。これは万が一バイオハザードが発生したとしても犠牲者が自分一人で済むようにするための措置だった。

大陸での記述
大陸に渡ったのは、炭疽菌の研究に協力してくれる人を探すためだった。いきなり見えざる支配者と言っても理解されないだろうから、まずは見えざる手の論文を発表し、反応してくれる有識者に話を持っていくつもりだった。 大陸の医者ではサロメの話に呼応するどころか、論文を理解できる医者すら一人もいなかったことにサロメは絶望した。流刑にされたことよりも、自分の研究が天涯孤独であることのほうがサロメにとってはショックだった。 （アインスについての記述は無かった）
一ヶ月前
ヘロディアと出会った。ヘロディアは旅の医者だと名乗り、深い知識を有してサロメの言葉を理解してくれた。ただ一人理解してくれたヘロディアはサロメにとっては光明だった。 （ヘロディアに何かを囁かれたのか）最早炭疽菌の研究を止めようかと思ったが、もう少しやってみようかな。と書いてあり、そこから先の日記は語調が変わっていた。 【ここからマグマの中の研究室の草稿より】 私は長らくこの病について研究してきた。しかし、この病について最早誰からの力を得ることもできない。私は無力だ。しかしヘロディアだけはそのことを解ってくれた。ヘロディアはたぶん私をそそのかそうとしているのだろう。けれども私はそれでも、あのヘロディアの言葉に耳を貸さずにはいられない。 私は病気を研究するための知識を十分に与えられ、先祖からあらゆる魔術刻印を受け継ぎ、あらゆる錬金術の知識でもって見えざる支配者を研究してきた。してきたつもりであった。 しかし、今、私は自分が何の為に研究を続けているのかわからない。 私は本当に人を助けたいと思っているのだろうか。私は本当に全ての医者に進化して欲 しいと願っているのだろうか。私は拒絶され、流刑され、誰にも理解をされない。その中で、今まで多くの事を思いながら貫いてきた信念が揺らいでいるの を感じる。 私は、人の命を助けたかったのだろうか。それとも、人の命を救う方法を見つけ出して称賛されたかったのだろうか。私は、称賛の為に人の命を使う事は最低だと思っている。 しかし、私は理解も称賛もされないことにどうしようもなく腹を立てている。私の研究成果を理解できない奴らが許せない。死ねばいいと思っている。そんな最低な人間になりたくはないのに、私は自分で自分の悪い感情をとめることができない。 私が炭疽菌をいまだに培養しているのは、きっと私を認めない連中を殺してしまいたいと思っているからなのだ。病気の研究の為にというのはきっと建前なのだ。本音は…… ヘロディアは、私のそれを罪と呼んだ。ああ、私の罪は、ヘロディアに最初から見透かされていたのだ。私の弱さは。しかし、ヘロディアは私のその罪を認めたうえで、受け入れてくれた。貴方はそれで良いといってくれた。私に自分の罪を自覚して、受け入れようといってくれたのだ。 私は自分の罪を認めよう、悔しいが私は私を馬鹿にした奴をみんな殺したいのだ。そう。私は罪に正直になろう。私は罪人だ。だからヘロディアが受け入れてくれたように、私も自分の罪を受け入れて、そして自分の罪を完遂するのだ。 たとえ何千人死ぬことになったとしても、私は復讐を遂げ、そして私の研究成果は大勢の人に知れ渡る。偽善者ぶるつもりはない。私は私。ありのままで生きて行こう。ありのままで罪を成し遂げよう。それが真に生きる自由な生き方。 **私　は　自　由　だ　！** （最後の部分だけ血文字で書き殴られていた）
二週間前
これ以降日記は書かれていない。全てが終わってから書くつもりらしい。（ここからがループの起点のようだ）

フルナ・ユキノとエメとヘロデ・アンティパスの映像記録

XXX年2月11日（雪山でコートを着た少女と巨大な鯨が会話をしている）	
ユキノ	初めまして、こんにちは。私はフルナ・ユキノ。貴方のお名前は？
エメ	我は雪の大星霊エメ。20万人を凍土に閉じ込め、滅びの七夜を終わらせた星霊である。しかしフルーナとはな。もしや貴様フルーナか？　滅びの七夜の最後の敵。我の前から消え失せたそれが、まさかお前のような幼きに姿を変えたとでも？
ユキノ	いいえ、私はフルーナではないのだけれど…
エメ	まぁ良い、お前のような幼きがフルーナ・ギルの筈は無かろう。面白き名前を持つ幼きよ。フルーナ。近頃大星霊をつぎつぎと誑かし、討伐しているのは貴様の仕業か。
ユキノ	私はフルーナではな……まぁいいか。別に誑かしているわけじゃないわ。貴方達の力は確かに強大だけれども、その力はこれから、この星の為にきっと役に立つ時が来る。私達と共に生きないかって、私はそうみんなを誘ってるだけよ。
エメ	くだらない戯言だ。フルーナよ、聞け。お前は幼きだから知らぬかもしれぬが、我ら星霊は別名災害霊と言う。災害霊とは災害を起こすための存在だ。我らは人に害無し、全てを破壊するためだけに存在する。我らにそれ以外の存在価値はない。
ユキノ	それは違うわ、エメ。この世界には、物を壊すためだけに生まれてくる存在なんて居ない。イル・スオウも同じことを言っていた。けれど最後にはわかってくれたわ。
エメ	…なに？
ユキノ	貴方達には必ず生まれてきた理由がある。最初は勿論災害として。けれど、貴方達は必ず用いられる使命があると私は信じている。貴方は、きっと、いつかこの時の為に生まれてきたのだと悟る時が来るわ。
エメ	我ら災害霊に、災害たる以外の存在意義を与えるだと。幼きよ、お前は一体何様だ。
ユキノ	私はフルナ・ユキノ。ただの人間よ、それ以上でも以下でもない。でも、私には何の力も無いけれど、私は、私達を用いられる偉大なる方を知っている。だから私は貴方相手でも物おじはしないわ。
エメ	……ふむ？　我以上に偉大な存在か。面白いな、フルーナよ。我すら用いる存在とやらを我に説いてみろ。そうすれば命だけは助けてやる。
XXX年2月13日	
エメ	いいか、幼きよ。一つ良い事を教えてやろう。神などと言う者は確かに存在するが、それは我をも用いるほど力のある存在では無い。あれは所詮作 り物、まがい物だ。この星が人の願望を用いて作り出した存在にすぎん。 そう、この私のように星に作られた存在にすぎんのだ。我と神は何の差異もない。我は災害を起こすため。 神は信仰の受け皿となるため。 ただそれだけの為に作られた存在にすぎん。
ユキノ	ええ、確かにあなたのいうこの世界の仕組みは私も知っている。でもね、ちがうのよエメ。そうじゃないわ。私達は、確かに私達を作られた存在があるの。この星がすべてをつくったなら、この星を作ったのは誰？　全ての存在には意味があるのよ。
エメ	ええい、ああいえばこういうやつめ。やはり凍らせてやろうか。しかし、お前を説き伏せないままでは我が逃げたようで収まりが悪いではないか。
ユキノ	別にかまいはしないけれど、説き伏せるには私は中々手ごわいわよ、エメ？
エメ	ふん、幼きの分際で。 フルーナよ。我はもう生まれてから200余年、更にはこの星からの知識も与えられているのだ。我の英知にお前がかなうものか。
ユキノ	あら、それをいうなら、私の背後にはこれを信じて生きてきた人間が2000年。それより前になれば5000年だわ。
エメ	……

XXX年2月20日	
エメ	やれやれ、お前は本当に変わった奴だな。幼きよ。その根拠にあふれる自信は何なのだ。大体貴様が持っているその本は一体何だ。何故貴様は我を恐れないのだ。
ユキノ	これは聖書っていうのよ。私の父親は牧師なの。だから私も色々詳しいのよ。貴方を恐れない理由？　そうね、肉体だけを殺すしか出来ない相手を恐れるなって書いてあるから。
エメ	馬鹿め、肉体を殺せばもう終わりだ。それ以上に何がある。死体が残らなければ、もう復活することも叶わないのだぞ。
ユキノ	だって私は死なないもの。この肉体が滅びても、私には**永遠の命**が与えられるのよ。
エメ	**永遠の命**だと…？　ははは、なるほど、アンデッドということか。
ユキノ	いやいやいや…そうじゃなくてね…
XXX年2月27日（ユキノの横に、気弱そうな青年が一人立っている）	
ユキノ	こんにちはエメ。今日は友達を連れてきたのよ。アンティパス君っていうの。
アンティパス	ヘロデ・アンティパスです。　あ、あ、あの、医者として勉強させてもらってますぅ（ｶﾞｸｶﾞｸﾌﾞﾙﾌﾞﾙ）
エメ	幼きが、今度は頼りなきをつれてきたな。なんだ、ユキノ。まさかその小僧も永遠の命とやらを持っているというのか？
アンティパス	永遠になんて生きられませんよ、人間死んだら終わりじゃないですか！？
ユキノ	ははは、アンティパス君にもちゃんとその辺は教えてあげたいんだけどねぇ…まぁ、無理強いはよくないから。
エメ	やれやれ、それで私は何をすればいい？
ユキノ	アンティパス君は私の助手なの。だから一緒にいるからいじめないであげてね。
XXX年3月5日	
エメ	頼りなきよ。フルーナが居ないからと言ってあまり怯えるな。私はお前に何もしない。
アンティパス	あ、す、すいません。あれ、フルーナってユキノさんのことですか？
エメ	そろそろ苗字ではなく名前で呼べとうるさいのだ。私には苗字や名前という概念が解らん。頼りなきよ、貴様の名前はどちらがどちらなのだ。
アンティパス	僕はヘロデが名前で、アンティパスが苗字です。確かにエメさんからしてみたらどっちがどっちでもいいですよね？
エメ	まったくだ……あの幼きに言ってやってくれ。私の前で神の話はするなと。あいつの話を聞いていると頭が痛くなってくる。

XXX年3月12日	
ユキノ	ところが、イエスは言われた、「わたしには、あなたがたの知らない食物がある」。　私達には私達の人生を潤すための**命の水**がこうしてえられるということなのよ。
エメ	また神の話か……お前は会ったらその話ばかりだな。
ユキノ	私が死なないってのはどういうことか説明しろっていったのは貴方でしょう、エメ。私の事宗教オタクみたいにいうのやめてくれる？
エメ	フルーナよ。確かに教えろといったのは私だったな。すまなかった。で、なんだ、その**命の水**とやらは。
ユキノ	私達が、私達を作った存在から貰えるものよ。これがあるから私達はどんな状況でも生き生きとした人生が送れるの。
エメ	いきいきとした人生か。我の知っている人間は、金と権力と健康な体があれば人生は潤うという連中ばかりだがな。
ユキノ	お金さえあれば、地位さえあれば、病気でさえなければ、そんなことを言い始めたら、私達には限がないのよ、エメ。私達が本当に向き合わないといけない所はもっと別のところなの。エメもきっとわかるわ。**命の水**を理解した時、私達の状況が何も変わってなくたって、私達はとっても幸せになれるん だから。
エメ	意味が解らん…
ユキノ	っていうか、ユキノ！ユキノって呼んでっていってるでしょう、エメ！
エメ	フルーナでいいではないか。こちらのほうが言いやすいのだ…
アンティパス	僕にも何を話してるのかさっぱりだなぁ…
XXX年6月2日	
アンティパス	だめです、容体が回復しません。
エメ	何を慌てているのだ。アンティパスよ。ユキノは死なないのだろう？　病気ぐらいでそんなに落ち込むな。
アンティパス	死なない人なんているはずないじゃないですか！　エメさん！　ユキノさんはこのままだと死んでしまうんです！　炭疽病に限りなく酷似してるのに、炭疽病のワクチンも抗生物質の投与も効かない。僕はユキノさんに何もしてあげられない！　何のために異世界の医術を学んだんだかこれじゃあさっぱりですよ！
エメ	ユキノ……今は居ないから良いか。フルーナは私に対して嘘をついたことはない。そんなあいつが自分は永遠に死なないと言っているのだ。例え肉体が死んでも死なないとあれは言った。だから騒ぐ必要はない。
アンティパス	あれは宗教ですよ！　宗教なんですエメさん！　神なんている筈ないじゃないですか！　そう思い込んで自分を慰めてるだけの弱い人間の妄想なんです！　人間は死んだらおしまいなんですよ
エメ	本当にそうか？　我はフルーナの話していることを聞いてきたが、そして内容はさっぱりと判らなかったが、フルーナは少なくとも弱い人間ではない。私はフルーナの為ならば、あの狭苦しい石ころに入ってやっても良いと思っている。あれは作り話に逃げ込んで自己完結するような弱きではない。
アンティパス	僕は宗教や迷信、そういったものに騙されて、受けなくても良い治療を受けて死んで来た人を何人も見て来たんです！　そういった人々が、どれだけ迷信に騙されて落とさなくていい命を落としてきたか。
アンティパス	僕は、そういう人を助けたくて医者になったんです。ユキノさんは必ず助けますから。 （アンティパスが走り去るところで映像が途切れている）

XXX年6月5日（病室内）	
ユキノ	いやー、参ったね。まぁ、たまにはこういうこともあるよ、うん。
アンティパス	だから言ったんですよ、倒れている野生動物の怪我なんて手当するなって。おかげでこのざまじゃないですか。
ユキノ	でも、疵を負って倒れてる動物の前を私が通りがかって、私はそれを治療する手段を持っていた。あれで素通りしたら、私、神様に顔向けできないからさ。
アンティパス	貴女馬鹿でしょう！？　そのおかげで貴女、いま死ぬんですよ！？　死ぬ間際になってまで神、神、神って！　そんなだから…
ユキノ	ごめんね、イライラするよね。でもね、私は今まで生きてきたけど、やっぱり神様がいなかったらここまでこれなかったから。多分この生き方でなかったら、イルは話を聞いてくれなかったし、カタリーナも私の友達になってくれなかった。ヨヘン・ハイムも人を病気にするのをやめてくれた。そして、ヨヘンが協力をしてくれたおかげで、今アンティパス君はこんなにすごいお医者さんになれたじゃない。
ユキノ	今まで生きてきて、神様は私の祈りを聞いてくれたし、いつもそばにいてくれた。そして私のことを裏切らないでいてくれた。だから、私から今更、裏切ることなんてできないから。
アンティパス	アンタ、今裏切られてるじゃないですか…死ぬんですよ？
ユキノ	いやぁ、それを言われると、弱い、な。　……でも、私はここで死ぬけど、主はそれも最善に用いられる。君は、これからたくさんのひとを、すくう、から……
ユキノ	君は神様に用いられている。だから……
アンティパス	バイタルが！？　ちょっと喋らないで、電気マッサージ！　器具もってきて！？
ユキノ	良いお医者さんになってね、アンティパス君。 （心電図0の音が鳴り響く、アンティパスの悲鳴が上がる。カメラが落ちる） （映像停止）
XXX年6月6日	
	（辺りに吹雪が吹き荒れている。ヘラジカが巨大な氷柱に閉じ込められている）
エメ	妙な病気を撒き散らし、お前はフルーナの命を奪った。万死に値する。
エメ	お前さえいなければ、フルーナは助かったのだ。上手くいったのだ。今も生きている。
エメ	お前さえいなければ…？　本当にそうか？　やがては同じことになっていたのか。　私は何故こんなにむなしい気持ちにあふれている。フルーナ・ギルを見失った時ですら、こんな気持ちにはならなかった。
エメ	幼きよ、お前は何処へ行った。お前は死なないのではなかったのか。ああ…死なない筈のものが死んだ。しかしお前は死んでいないという。この期に及んで、私はまだお前が嘘をついているとは思えない…
エメ	**命の水**があれば、状況が変わらなくとも幸せになれるとフルーナは言った。この期に及んでもか？　お前は死に、そして居なくなった今も、私をこのむなしさから解放できるのかフルーナ。
エメ	**命の水**とは結局何なのだ、こんなことならもう少し話をきいてやればよかった。フルーナ、どこにいる。我はつまらない、退屈だ。どこかに隠れているのか、フルーナ。死んでいないなら我の前に出てくるのだ、フルーナ、フルーナ。 （巨大な鯨が吹雪の奥へ消えていくところで映像の記録が終了している）
この記録をした後ラブフォーンは10年間氷漬けになり、その後回収された。	

既出アイヌ語辞書	
ウパシ	雪
ウパシカムイ	雪の神　悪神扱いになっている　災害霊じみたものも
アペカムイ	火の神
キムンカムイ	山の神　白熊　人を食べるとウェンカムイとなる。
ウェンカムイ	悪い神の総称　呪い　化膿　病気
アチャ	父
ヒンナヒンナ	食物に対する感謝　いただきますと同義
ニシパ	～の旦那

ネームドNPCリスト	
アラノ	アラノ・アッシュサーヴァ。ニブルヘイムの領主。お髭のナイスミドル。自称【流刑の地のはぐれ貴族】。火山の噴火を止めるという話のスケールが大きすぎて理解が追いつかなかったように見える。セフィがしっかり話を通したため、それなりに協力してくれそう。
サロメ	34歳、レベル10のマナエンプレス。固有職業ウィッチドクターを所持している。暴風の大星霊ボーフーを使役する優秀なドルイドでもある。体術もそれなりにできるようだ。伝統的な武器軟膏療法を否定したため異端として流刑になった医者の一族の末裔。実は世の中の医学の100年先を進んでいる。さらにアンティパスー族は950年の歴史を持つ大魔術師の一族であることが分かった。たくさんの大魔法が魔術刻印として身体に刻まれているようだ。15年前に氷漬けのヘラジカの死体から見つかった病原菌『炭疽菌』の研究をしていた。万が一バイオハザードが発生しても死ぬのが自分一人で済むようにと火山の方に住んでいる。街に来ては診察をすることで食いつないでいる。医者としての腕は確かで、診察を受けた患者はちゃんと治る。酒場でくだをまくらしい。思うように研究が進まず自分の無能と罪深さを嘆いていた。研究の協力者を探すために領主アラノが止めるのも聞かずに本土の方に向かったが、どの医者も論文を理解することができず絶望した。魔女扱いされて正式にニブルヘイムに流刑にされたが、流刑よりも研究が孤独なことへのショックが大きかった。住居から街に往診に来る途中でスィンカーに襲われていたところをホオヅキの冒険者に助けられた。実は剣王国首都アパパカルガでアインスに『やり直し』をさせてもらっていたことが分かった。彼女は火山灰に触れただけで感染し瞬く間に死に至る炭疽菌を混入することで火山灰の及ぶ範囲を壊滅するという超巨大バイオテロを画策していたことが分かった。動機は『実際に「見えざる手」があることを世間に示すためにありえない病気をばらまく』ことだった。彼女はホオヅキの冒険者に追い詰められて過去に既に5回以上の『やり直し』を行っていた。マーナーナは彼女を不意討ちで一撃で殺し『やり直し』をさせないようにするのが一番簡単だと言っていたがいったんサロメをホオヅキの冒険者に委ねる判断をした。15年前に氷漬けのヘラジカの死体から発生した疫病（炭疽病）の蔓延を防いだ時に助けることができなかったアイヌの若者のために泣いたエピソードがある。彼女とアイヌの交流からも彼女の本来の人間性が分かる。ドロシーは彼女は（精神的なショックで）ひっぱたけばまともに戻ると言い、カーミラは彼女の考え方を変えるようなものを提示すればいいと言った。改めてサロメの家に入ってみると、アイヌや街の人々からの感謝の印がたくさん宝物のように飾ってあり、隠し書斎にはたくさんの思い出を詰めたビー玉（シールロギア）が残っていた。最終的に彼女をヘロディアの罠から立ち直らせたのはクリスタルゴーレム（評価額五千万セレン）を石化されたことだった。冒険後、ドロシーやリリーナと友人になり、良い理解者を得たことで色々と考え方も変わったようだ。ホオヅキの非常勤医師となり、師匠枠に収まった。

ヘロディア	【原罪の追求者】と呼ばれている。アインスの信奉者だが、まだアインスと直接会ったこともないし、アインスも彼女のことは知らない。自分の心の中のアインスに従っている。純粋に楽しいから暗躍していると自供した。彼女自身はほとんど関与の証拠を残さないが、彼女が来ると半年以内に、普段大それたことをしないような人が首謀者となって大それたことをやらかすらしい。NTCが捜しているものの尻尾が掴めないでいる。サロメへの接触が心配されていたが、既にサロメの助手の看護師に収まっていた。医学の心得もあるようで看護師としてちゃんと動けるようだ。テレサは彼女のことを認識していたが、直接裁くことができないので敢えてスルーしていた。アインスの臭いを嗅ぎつけてきて、サロメをたきつけて超巨大バイオテロをそそのかした。サロメを殺そうにも彼女が邪魔をするし、彼女を殺すとサロメが『やり直し』を発動してしまう。彼女こそダークビショップと呼ぶにふさわしい。しかし、ホオヅキの冒険者に企みを阻止されて悪態をついて逃亡。しかし、いつの間にかホオヅキの師匠枠に。ダークビショップが解放されることになった。
ドロシー	ドロシー・スカーレット。紅の魔法使い。ホオヅキの医者であり薬剤師。カーミラの弟子。医学苦学に詳しい。現在の夜霧館の主。夜霧谷に帰省していてホオヅキを留守にしていると思ったらニブルヘイムの朝市で遭遇した。サロメのことは気に入っているようで、細菌やウィルスについても権威だった。それはドロシーの一族の1200年にもわたる研究の成果らしい。人形好きとしても知られている。ルシュ・ブランが夜霧館に来ていると聞いて慌てて挨拶に行ったほど。ホオヅキに紅茶を飲みに来ていたレツトを見て感動していた。彼女の人体錬成は実はルシュ・ブランへのリスペクトなのだと本人は語っている。ラブフォーンの証言により、滅びの七夜に数えられる冥王ヨヘン・ハイムの封印石の現在の所有者であることも明らかになった。魔界皇族ギュラとも契約している。リーンとの漫才ではツッコミ担当。やり直しについては深入りすることを避けていたが、ついにやり直しについても関わることに。炭疽菌についての情報を見てもさほど驚いている様子はなかった。レツトがホオヅキに人形工房を開設すると嬉々としてその手伝いに励んでいる。冒険後、サロメとも友人になった。
リリーナ	ホオヅキの船医。医学には詳しいがカーミラとは特に関係は持っていない。武器軟膏やアンティパス家についてもよく知っていた。アンティパス家の者たちを空気が読めなかったと評した。細菌やウィルスに関してはドロシーから教えられていて一定の理解をしている。コーヒーが嫌いだが、父にあたる人に大人になったから心配しないでほしいという想いをこめてコーヒーを飲んでいる。冒険後、サロメと友人になった。
リーン	ホオヅキの娼館の事務担当。夜霧谷の人。また夜霧谷に戻っていたようで、朝市にドロシーと一緒に生魚の買い付けに来ていた。ドロシーとの漫才ではボケ担当。彼女の前で神の話をすると怒られる。
テレサ	【原罪の探求者】テレサ・ティガール。食欲魔人。神域神聖祈祷を教えてくれる。天秤の遺跡には彼女と同じ存在が今もいるのだろう。準GSやGSではウォーリーのごとく色々な場所に現れる。三日前に火山の方へと歩いて行ったという目撃情報があったが、オラトリアの女神の託宣のとおり谷底にいた。空腹により落下した疑惑は真実だった。吊り橋から約10m落下したようだったが不自然なほどに深刻なダメージはなく、飲んで食べたら元気になった。アインスとヘロディアを心底嫌っているが、直接悪事を働かないヘロディアを裁く口実がないためヘロディアに手を出すことができない。また、迷っている人を嗜めたり応援したりすることはできるが、たとえそれが悪行だとしても自分の意志で自信を以って決断する人に関わることができない。夜霧館でホオヅキの冒険者に助言を残して、またどこかへ旅立った。 『そして主は言われました。私から命の水を飲むならば、貴方は乾くことがなくなると。それは潤いのある人生を送れるようになるという意味です。人生の中で物質は私達に幸せをもたらしません。本当に価値がある人生とは、状況の変化や物質によるのではなく、何を見て生きるかの視点の変化に寄るのです。神様 を見て歩むときに、私達は生き生きとした人生を歩むことができます』

マーナーナ	流浪の剣士。ガルムの生き別れの実姉。ガルムの記憶の中では、ガルムを守って無数の矢を受けて死んだはずだったが、何故か生きている。ガルムの一族を奴隷商人に売り渡した裏切り者ということにされているが真実は不明。ゴッドハンドのアインスを探してホオヅキに現れたという複数の目撃証言があった。一行の中でこれを知っているのはアリーヤとテオのみ。今回はニブルヘイムで突然現れて一行に赤い悪魔に気を付けるようにとスィンカーに襲われることを予言。礼儀正しいのか失礼なのか微妙な人。ガルムを助けるために、過去にアインスに『やり直し』を願ってしまったことから、他人の起こした『やり直し』に付き合わなければならないという制約を課された。それからは『やり直し』を行うものを殺して回り、最終的にはヘロディアもアインスも殺すつもりでいる。彼女はガルム一家の面汚しで死んだことになっているというままでいることを望んだ。今更ガルムたちに会うつもりはないようだ。あくまでサロメに対するアドバンテージを失わないように、ホオヅキの冒険者には協力はするが一緒には行動しない。海岸で撲殺した黄金アザラシをあっさり譲ってくれた。彼女は一体どこまで事態を把握しているのだろうか。面白いものを見に行くと言い残していずこかに消えた。
Dr.クラウド	若いやせぎすの青年。今回、殲滅型スィンカーにエミュレートされた人。人の魔王戦役で暗躍した雲派錬金術師の異端児。賦活によって人の完全復活を成し遂げ、パーフェクトクリエイトゾンビの秘法を掴み取った。戦役中、雲派の筆頭魔術師藪医者マトーヤを駆逐し、その後命がけでぶつかった雲の錬金術師リリーナが忠臣ファブニールと共に命がけで勝利を収めた。最後は雲のリリーナの放つ磔刑丘（ゴルゴダ）によって永遠の闇に葬られ消滅した。黒の衝撃を撃ってきたヘラがリリーナに見えたのか、生前の想いを伝え、ヘラの腕に魔術刻印を刻み、崩れ去った。マトーヤとはライバル関係にあったようだ。
アインス	ゴッドハンドのアインス。望まれれば人に過去の心残りを『やり直し』させてくれるという。アパパカルガでサロメに会い、『やり直し』をさせている。ヘロディアのことを彼は知らないようだ。実は天秤の騎士であるということがマーナーナの言葉から明らかになった。…ということは、どこかでスィンカーとも関わりがあるということだろうか？
レオンハルト	ティガール帝国元第三皇子。ヒルデガルド・フォン・ティガールと皇位継承を争った。実際に皇位継承権第一位の人物。ヒルデガルドに敗れたが、現在野に下って国の奪取を画策している。
エドワード	エドワード・ラッセル。リグニーラット狩りに来ていたハンターの正体。アイヌにも尊敬されるほどの狩りの名手。38歳の冴えないおっさん風だったが実は…。ティガール猟兵団元団長。若干15歳でティガール猟兵の頂点に上り詰めた天才。鷹の目エドワード、無明の狙撃兵など、多くの異名がある。皇位継承権の争いの際、第一皇子を警護したが失敗。その後に責を負って野に下った後は消息不明とされていた。引き金を引くときに震えることがあり、何匹かのリグニーラットを取り逃がしている。辛い体験があったのかもしれない。アイヌの集落に感謝と友情の証に愛用のクロスボウを置いていった。
クッシャロ	遺跡のゲート近くで建物跡に潜んで火を焚いていたアイヌの女性。命の恩人。ウパシカムイから身を守るすべを教えてくれて、アイヌの習慣について教えてくれた。街で調べたアイヌについての事前情報は細工物を贈る意味以外は大体合っていた。リグニーラット狩りで尻尾をあげる約束で集落に案内してくれることに。マシューと彼女の台詞から18歳であることが判明した。（満年齢ではなく数え年かも）8歳の時に求婚と勘違いして細工品をくれたよそのハンターにとても親切にしたというエピソードがある。ヘラが購入した白熊の毛皮をベア・レザーに仕立て上げてくれたり、熊鍋のレシピも教えてくれた。ラッコの安全な食べ方も教えてくれた。屈斜路湖？

マシュー	クッシャロの父。身長230cmの巨漢。ヘラジカの首を一撃で落とせるアイヌで一番の英雄。刃渡り1.5mの巨大な山刀を提げている。山刀の柄は白熊の骨でできていて美しい彫刻が彫られている。立派な大人で、アイヌに対して親切にしてくれるサロメのことをとても尊敬している。摩周湖？
エメ	アイヌからウパシカムイと呼ばれていた霊の大星霊。カーミラやギュラは火山の周りを飛んでいる白鯨としてよく知っていたようだ。滅びの七夜クラスの強大な災害霊で、500年前に滅びの七夜の第七夜『フルーナ・ギル』の噴き出した大量の溶岩を冷え固まらせた。エメとフルーナ・ギルの戦いは幾日にもわたって続いたが、溶岩がどこへともなく消え去った。それ以来。エメは敵を見失ったままで、つまらない気に入らないと、かつて噴火した火山の周囲を彷徨っているというのがアイヌの見解だったが、実際にはフルーナ・ギルについてこだわっていたわけではないらしい。星霊術の概念のないアイヌの一族の勇者をことごとく氷漬けにしている。コントラクト無しで友人となった第二次調査隊の古奈雪乃が炭疽菌で死んだときに怒りのあまり感染源になったヘラジカを氷柱に閉じ込めた。色々引っかかって彼女の死をまだ受け入れることができずに今も彷徨う。ギュラ曰く、ドルイドが彼女の悩みを解決できれば力を貸してくれるかもしれない。ユキノとの会話にでてきた命の水と永遠の命を言葉通りに受け取ってしまい、現実とのギャップに苦しんでいる。彼にユキノとの別れで失ってしまった命の水を取り戻させることができればきっと力を貸してくれるだろうとテレサは言う。実際の接触ではお約束の口上を述べると虚勢を張るなと一蹴してきた。話の内容を重視するタイプのようだ。勘違いと苦心の末にメイファと契約を果たした。まずはメイファに礼儀を仕込むことだろう。
カーミラ	カーミラ・スカーレット。赤いドレスの綺麗な女。実際には性別はない。夜霧の館にいる伝説のヴァンパイアロード【紅の女帝】。ドロシーの師匠にあたる人物。もう隠居の身なので今は夜霧の館はドロシーに譲ったようだ。ニブルヘイムの街ができる前からこの地に君臨し、流刑者だった者たちに生きる知恵と文化を授けてくれた。神々の領域の話でも動じずに聞いてくれるだろう。サロメの炭疽菌の資料をあっさりと読んでいた。とんでもない知識量。300年前に第二次惑星調査団がスィンカーの大発生で滅ぼされた事件を、住民に説明するのが面倒で火山が噴火したことにしていた。フルナ・ユキノの映像記録を見て感動の涙を流していた。
ギュラ	アルク・ギュラ。褐色の肌で白髪の男。実際に性別はない。魔界貴族の頂点に君臨する八柱の一人。魔界皇族。灰の砂漠の主にして灰の魔王。現世に存在する魔王と一緒にしてはならないらしい。普通に冒険しているだけでは会えない。マナと関係があるかすら怪しいとか。長生きしすぎて礼儀などにはもう関心がないようだ。ミヤのことも知っているようだ。魔界貴族に人間界に行く許可を出すのはこの人らしい。アヴィリアやリーンについても把握しているとのこと。とんでもない知識量。ホオヅキの冒険者からエリやアインスの残り香を感じた。
ユキノ	古奈雪乃（フルナ・ユキノ）。第二次調査隊の一人で星霊術の創始者メンバーの一人。星霊と語り合う特殊能力を持っていた。星霊術のエンカウンターは彼女の能力を分析・再現して作られている。雪の大星霊エメとコントラクトをせずに友人となった。他にも滅びの七夜のうち海王イル・スオウ、暴風カタリーナ、冥王ヨヘン・ハイムも彼女の説得に応じている。災害霊とそのような関係になった人間は彼女一人のみ。彼女は災害霊を災害としては扱わなかった。最初は災害だったとしても、必ず何らかの使命を持っているはずと語っている。父が牧師だったため敬虔な一神教の信者だった。聖女だったのかもしれない。ラブフォーンのかつての所有者でもあった。アンティパス家の300年前の先祖ヘロデ・アンティパスは彼女の助手だった。ヘロデが止めるのも聞かずに怪我をしたヘラジカを治療して炭疽菌に感染し、地球のそれとは異質な炭疽病を発症し死亡した。その際、地球の炭疽病を治療するための抗生物質は役に立たなかった。彼女の言葉を理解しきれなかったエメは今も苦しんでいる。

ヘロデ	ヘロデ・アンティパス。アンティパス家の300年前の先祖。第二次惑星調査団の現地協力者。気弱そうな青年だったがユキノの助手として頑張って、第二次惑星調査団の医療技術を学ぶことでひとかどの医師になった。しかし、必死の努力もむなしく結局ユキノを救うことができなかった。この憤りと医療技術が子孫に受け継がれた結果、執念と努力の蓄積の末に今のサロメの時代の100年先を進んだ医療技術になっているのだろう。彼なら武器軟膏を正しく批判できるはずだったが、それが子孫に受け継がれなかったことが惜しい。
ラブフォーン	第二次惑星調査団の生き残り。かつてはユキノに所有されていた。ユキノとエメの交信記録を持っているが、それを再生するためには夜霧館のカーミラが持っている『千里眼』を接続する必要がある。ユキノの死に怒り狂ったエメが暴れたおかげで10年間氷漬けになっていたが、その後回収されたようだ。冒険後、サロメの家に移ってニブルヘイムで看護師となって働くことになった。
ルシュ	ルシュ・ブラン。あまりにも名高い人形師。誰よりもすごい人形を作ろうとして探求を繰り返して最後にたどり着いた到達点がただの人間だった。それに気づいたとき、自分にはもう人形を作る資格はないと人形の製作をやめてしまったという逸話がある。彼の最後の人形は彼と同じ人格を持っている。彼自身がまだ生きているかどうかは分からない。夜霧館に遊びに来ていたとカーミラの証言があり、大の人形好きであるドロシーは慌てて挨拶に行った。
レツト	レッツト・プーパー。名前は『最後の人形』を意味する。ルシュ・ブランの最後の人形で百体目。老紳士の姿をしていて文学に通じている。見た目は人間そのもの。ルシュ・ブラン本人と同じ人格を持ち、彼のことをルシュ・ブランと呼ぶものも多い。ニブルヘイムの宿屋やホオヅキの船尾楼で紅茶を嗜んでいるところを目撃されている。夜霧館にいたのも彼だと思われる。エメとの接し方に悩むメイファに貴重な助言を授けた。冒険後、ホオヅキに人形工房を開設した。その噂は戸沢白雲斎の耳に届き、彼をホオヅキに呼び込むこととなった。
マーティン	シーフギルド所属の者。リオ商会と結託してNTCには内緒の裏営業で密航ビジネスを取り仕切っている。元々は大陸にいたが、大陸でも組織に内緒で悪事を働いていたのでニブルヘイムに左遷されたらしい。アルマー神殿の神父を手下にしている。事件発覚後捕縛されたはずである。
神父	本名不明。マーティンの手下。独身。本物のアルマーサがおらずオーディンなどの北方の神々と一緒に信仰されるニブルヘイムの実態に困っている様子だったが、実は裏で密航ビジネスに関わっていた。ラストバトルから逃亡するがインフルエンザに感染して倒れているところを捕縛された。
マスター	宿屋のマスター。本名不明。夜霧谷の住人達やアイヌたちとも付き合いがあり、顔が広く色々なことを知っている。宿屋の地下にNTC傘下のシーフギルドがあるからにはNTCとも無関係ではないはず。夜霧館でなくニブルヘイムで娼婦をする場合は彼が仲介してデリヘルのような形で客先に行くことになる。熊肉のメンチカツは彼独自の料理。他にもニブルポテトやヴィラン豚のソーセージ、超大ジョッキの黒ビールなど魅力的なメニューを取り揃えている。
ボーフー	サロメと契約していると思われる暴風の災害霊。一万人規模の被害を起こせる。風を起こしては行きかう船を沈めていたらしい。200年ほど前に封印石に封印されたようだ。エメ曰く『いけすかない女』。サロメはこの災害霊を使って火山灰の拡散を加速させるつもりのようだ。ラストバトルではサロメが早々と眠らされたため出番がなかった。

入手アイテムリスト	
前金	調査費金貨200枚（2万セレン）、前金一人あたり金貨60枚（6千セレン）
ベア・レザー（雪迷彩仕様）	ヘラが自費で購入した白熊の毛皮をクッシャロたちアイヌの娘が仕立て上げた。白熊の革を特殊な技術で加工して作られた民芸品。製造は北方の少数部族のみが可能で非常に希少な品。ヘラからレイナに贈られた。重さ+5のベースがあ る。火、氷、雷属性の攻撃に対して魔法抵抗+2。雪の積もっているフィールドで隠れるに+4ボーナス　寒冷ペナルティを無視する。布属性　あらゆる行動 の阻害にならず、一切の衣擦れの音がしない。フードを引っ張って降ろすと熊のお面になる。（目の部分が開いている）ガーブ、ブーツ、バイザー（フード）、手袋のセットで、細かい作業の邪魔になる。革鎧扱い。　重さは5-20。　弱点部位：なし　マジックアイテムではない。
軟膏	ヘラが自費で購入。武器軟膏に使う。価格1セレンj。
エドワードのクロスボウ	アイヌからの借り物。壊さずに返す必要がある。エドワードがアイヌの集落に感謝と友情の証にと置いていったもの。ノーマル品だがよく手入れされている。重さ10で最終ベースが30。カスタマイズされていて毎ターンの射撃が可能。ダメージボーナスは3とする。クォーレル・ハイが10個付属している。 **既に返却済**
リグニーラットの死体	ミストが頭を狙撃して仕留めた。
木彫り	ヘラがアイヌの娘たちとガールズトークをしながら完成させた。三つある。
ラッコ鍋のレシピ	裸人教の残したラッコ鍋を食べてレシピを研究した結果、得た。さらに後でクッシャロに聞いた情報、ラッコの肉を一度別の鍋で塩茹でにして余分な脂と灰汁をとることで、毒を消すことができることを追記した。（水炊きになるらしい）
熊鍋のレシピ	クッシャロから教えてもらった。臭みは香草で飛ばしてある
黄金アザラシ	マーナーナが海岸で仕留めたのを譲られた。ヘラが換金して60万セレンに
時限式スパイラル・フラム	威力がありすぎてお蔵入りとなった爆弾の試作品。一発のみ。火山の噴火と同等の破壊力がある。材料費だけで賢者の石五個分かかっているという。時限装置付き。赤いボタンを押して6ターン後に爆発する。58万セレンでカーミラから購入。
エメの封印石	アイテム扱いは失礼の極みだが忘れるといけないのでこちらにリストアップ。
聖印と聖水	ヘラが自費で購入。200セレン。
成功報酬	一人あたり24000セレン

消費リスト	
盗賊ギルド情報料	怪しい人間の出入り情報で金貨5枚、ヘロディアの情報で金貨20枚、サロメの情報で金貨2枚、マーナーナの行方で金貨5枚。輸送船のスケジュールで金貨1枚。合計で金貨33枚。（3300セレン）
宿屋宿泊料	宿泊と食事込みで1泊10セレン。全員合計で50泊分。
馬のレンタル料	六頭借りたので12000セレン。馬を返したので11400セレン戻ってきた。差し引き600セレンほど消費。
テオクリスタル	スィンカー戦の際にアリーヤが割った。4万セレン相当。必要経費。
時限式スパイラル・フラム費用	カーミラが作った爆弾の母。標準価格60万セレンのところ、おまけして58万セレン。
乞食情報料	金貨3枚と6セレン支払い。（306セレン）

追加報酬	
やわらかい石	やわらかい石。錬金材料。やわらか石の表記揺れと思われる。
不死王の杖	魔力+2、ダメージ+2のメイジメイス。 射程150cm 撲殺した生物をアンデッドのしもべとして支配下に置く。 4体まで。自分の冒険者レベル+1のモンスターレベルまで。 両手杖。 基本取引価格：100万セレン。
アジル・アブ・アタフ	原典アル・アジフの写本と言われる一冊。 紅く染められた人のなめし革で作られた表紙で出来ている。 読んだものは発狂する為、発狂しない死者にしか持つことが許されない。 装備すると発狂する。 魔力+2、ネクロマンシー系の術式理解+2。 魔法の発動体。 あらゆる知識判定に+2。 基本取引価格：2000000セレン
死者の杖	魔力+1、信仰+1の発動体。 深紅のラインが引かれた伝説の吸血鬼の手製。 アンデッド使役の精神減少を3体まで無効化する。 1シナリオに1度、即死系の魔術を無効化する。 不死属性が常に付与されている（ベース+10）。 重さ10。両手杖。 基本取引価格：300000セレン
金塊	100万セレン分 領主からの礼金。
魔術書「ゲートトラベル」	ゲートトラベルの魔術書。 契約したゲートに移動できるゲートを開くことができる。 ゲートの契約は１つにつき20000セレン。 ゲートの行先は契約したゲートか、見えている範囲内のどこか。 アビリティ扱い。 基本消費48（術式理解可） ソーサラー魔術扱い。 基本取引価格：1000000セレン